

『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』

フェルガナ盆地における民間所蔵史料の研究

河原 弥生

(日本学術振興会特別研究員 [東洋文庫])

**Tadhkira of Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān:
Study on a private manuscript in Ferghana Valley**

KAWAHARA, Yayoi

JSPS Research Fellow, Toyo Bunko

The purpose of this article is to introduce and study an unique manuscript tentatively named “Tadhkira-i Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān,” which is owned by a resident in Altıariq in Ferghana Valley, with showing photos, Arabic texts, Japanese translation. Khwāja Ḥasan is one of the sons of Āfāq Khwāja, who played an important political role in Eastern Turkistan at the end of the 17th century.

This manuscript takes the shape of scroll. It has no information about the author, the place and the period of its completion. This manuscript may be a document certified at a qadi court, because it had been validated by two stamps of qadis, which have the dates of 1870-1880s. It consists of mainly three parts. The first part is a tree diagram of general genealogy from Ādam to prophet Muḥammad. Texts start at the beginning of the second part, which deals with mainly the genealogy from prophet Muḥammad to Āfāq Khwāja. The third one is the biography of Khwāja Ḥasan, which is probably the main part of the manuscript. It is a mystery that another genealogy written on another paper by another copyist is inserted between the second and the third parts of texts. This genealogy shows a long line of descendants of Āfāq Khwāja from his daughter.

The biography of Khwāja Ḥasan contains some other information than known sources like “Tadhkira-i ‘azizān”, “Tadhkirat al-Hidāyat”, “Hidāyat-nāma”, “Āfāq Khwāja manāqibi”, and “Sirr al-aḥbāb”. These sources describe what Khwāja Ḥasan had done after the death of his father; he left Kashghar for Hindustan with his brothers. Spending a long time in Hindustan and in Mawarannahr, he frequently went to war against Junghars. On his way he was married the daughter of king or the shaykh of Hindustan, and they had a child. But the child died young. At the end of his life, he went to Qarātāgh town in Ḥiṣār, where he was assassinated with poison by one

Keywords: Naqshbandiya, tadhkira, Kashgar Khwajas, Ferghana, private documents
キーワード: ナクシュバンディー教団, 聖者伝, カシユガル・ホージャ家, フェルガナ, 民間所蔵史料

Muhammad Riḍā bik, the mayor of the town.

The description about his journey to Hindustan and Mawarannahr in “Tadhkira-i Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān” almost corresponds with above mentioned sources. But after his arrival to Qarātāgh “Tadhkira-i Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān” gives a full detailed account about the marriage with one Rābi’a. Khwāja Ḥasan was poisoned two months after the marriage with her. Seven months after his death Rābi’a bore a son. In accordance of the last will of Khwāja Ḥasan, Rābi’a and her brother named him Khwāja Qāsim and had leave their town for Khaṭlān district with twelve houses of their relatives. They survived in Sayyād village in Khaṭlān.

“Tadhkira-i Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān” therefore shall be a important and interesting material that gives complementary information about the activity of Khwāja Ḥasan and indicates the existence of “descendants” of Khwāja Ḥasan in Khaṭlān.

- I. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』について
はじめに
1. 発見の経緯と史料の概要
2. ホージャ・ハサンの活動と生涯—他の史料との比較検討
3. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の特徴

- おわりに
II. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』アラビア文字テキスト
III. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』日本語訳
IV. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』写真

I. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』について

はじめに

本稿は、ウズベキスタン共和国のフェルガナ盆地に住むある老人が私蔵するチャガタイ語史料、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝 (*Tadhkira-i Khwāja Ḥasan Ṣāhibqirān*)』(仮称)の紹介とその検討を試みるものである¹⁾。この史料は、所謂「カシュガル・ホージャ家」の一員であるアーファーク・ホージャ (Āfāq Khwāja) —本名ヒダーヤトゥッラー (Hidāyat Allāh) — (1693-94年没)の息子で「サーヒブキラーン」の異名を持ったホージャ・ハサン (Khwāja Ḥasan)の系譜と伝記を記したユニークな史料である。

周知のように、ティムール朝崩壊以降19世紀に至るまでの東西トルキスタンの歴史に、ナクシュバンディー教団のシャイフたちは大きな役割を果たしてきた。とりわけ、16世紀の教団の指導者マフドゥーミ・アァザム (Makhdūm-i A’zam) —本名ホージャ・アフマド・カーサーニー (Khwāja Aḥmad Kāsānī) — (1464-1542)の子孫のうち、東トルキスタンに赴いて活動した一族「カシュガル・ホージャ家」の活動は、17世紀から19世紀の東トルキスタンの政治史において、重要な位置を占めていた。またこの一族がイスハーキヤー (Ishāqiya)とイーシャーニーヤ (Ishāniya)のアーファーク統 (Āfāqiya)の二党派に分かれ、主導権をめぐる内部対立していたこともよく知られている²⁾。しかし、「カシュガ

1) この史料についてはすでに Кавҳара, Я. 2004の簡単な紹介がある。

2) 詳しくは、小松編: 302-305, 羽田 1982: 1-48を参照。東西トルキスタンで活動したマフドゥーミ・アァザムの子孫の二つのグループについて、様々な呼称が用いられている。ホージャ・イス →

ル・ホージャ家」に関する史料は多くはない。カシュガル・ホージャ家に関する著名な聖者伝 *Tadhkira-i 'azizān* または *Tadhkira-i khwājagān*³⁾ がイスハーキーヤ寄りの立場から書かれていることから、イスハーキーヤの形成や活動については、これまで比較的良好に研究されてきた⁴⁾。一方で、アーファーク統に関しては、アーファークの曾孫の兄弟が清朝に駆逐されてバダフシャンで殺された事件や、その子孫とされるジャハーンギール・ホージャ (Jahāngīr Khwāja) のカシュガル侵入、ヤックープ・ベク (Ya'qūb bik) 政権で重要な役割を担ったブズルグ・ホージャ (Buzurg Khwāja) についてなど、19世紀の事件についてはいくつかの専論が発表されて久しいが⁵⁾、アーファークの直接の子供たちの活動や、その子孫については、イスハーキーヤとの対立において度々言及されながらも、一次史料が乏しいことから十分な検討はなされてこなかった。近年、アーファーク統に属する一次史料の研究も始まったものの⁶⁾、世界各地の研究機関等に所蔵される伝記類は奇跡譚に富む性格を帯びており、難解さからか

あまり利用されてこなかった。しかし、旧ソ連などではすでに、伝記類を利用して、スーフィー教団やそのシャイフ、彼らに関わった歴史事件に関する研究が増えつつある⁷⁾。伝記には、しばしば非現実的な奇跡譚が盛り込まれているが、一方で王朝によって編まれた年代記などには見られない、当時の人々の活動が生き生きと描かれ、当該地域社会の様相を写し出す貴重な史料とも言えるのである。

そこで本稿では、本史料の発見経緯と描かれているホージャ・ハサンの活動を紹介し、他の諸史料と比較検討したい。併せて、全文の日本語訳、アラビア文字テキスト、史料の写真を提示する。

1. 発見の経緯と史料の概要

この史料はフェルガナ州アルトゥアリク (Олтириқ) 郡ガイラト (Ғайрат) 村に住むトラハーン・ワリーエフ (Тўраҳон Валиев) 氏の家に所蔵されており、2003年の調査で筆者が見出すまで、その存在は学界には全く知られていなかった⁸⁾。

筆者が所有者の家を訪ねることになったき

ノ ハーク・ワリー (Khwāja Ishāq Wali) の子孫については、「イスハーキーヤ (イスハーク派、イスハーク統などを含む)」、「黒山党 (黒山派、カラタグルクなどを含む)」など、また、イーシャーニ・カラーン (Īshān-i Kalān) ことムハンマド・アミーン (Muhammad Amīn) の子孫については「イーシャーニーヤ」、またその孫で東トルキスタンで活動したホージャ・アーファークの子孫については「アーファークキーヤ (アーファーク派、アーファーク統)」、「白山党 (白山派、アクタグルク)」などである。しかし、「黒山党」と「白山党」は、より後代の東トルキスタンでの呼称である。また、後代の東トルキスタンにおいてはもっぱらアーファークの子孫が活躍したため、「イスハーキーヤ」に対して「アーファークキーヤ」という対立概念が見られるが (例えば、小松編: 304)、西トルキスタンにおけるムハンマド・アミーンの子孫の活動についても考慮するような場合には、「イスハーキーヤ」に対しては「イーシャーニーヤ」の呼称が適切であろう。このような理由により、本稿では便宜的にイスハーキーヤとイーシャーニーヤ、そしてイーシャーニーヤの一派としてアーファーク統という呼称を用いることにする。イスハーキーヤとアーファーク統の対立の始まりについては、澤田 2005: 304-310 を参照されたい。

3) 当史料の性格については澤田 1991 参照。

4) 澤田 1987, 澤田 1996, 澤田 2005 など。

5) 佐口 1963: 67-102, 405-467, 新免 1987 など。

6) 新免・菅原 2002, Жалилов, О. 2001 など。

7) 例えば数多くの聖者伝を用いて、18世紀から19世紀初頭にかけてのナクシュバンディー教団ムジャッディディー派の活動と、ブハラ・アミール国の君主らとのかかわりを論じたものとして、Babadžanov, B. M. 1996 や Von Kügelgen, A. 1998 がある。また、1898年に起こったアンディジャン蜂起の指導者ドクチャ・イーシャーンの伝記も近年校訂出版され、蜂起に関する新たな研究が可能となりつつある。Манакиб-и Дукчи Ишан, 2004。

8) 筆者に本史料の複写と出版の許可を快く与えて下さったワリーエフ氏に記して感謝する。

っかけは全く別のことにあった。筆者はかつて、フェルガナ盆地の主要都市マルギラン周辺に居住する「トラ (rŭpa/tŭra)」と呼ばれる一族の調査を行った。この史料の所有者ワリーエフ氏は、この「マルギランのトラ」一族のある系統の子孫にあたり、ガイラト村には氏の父にあたるワリーハーン・トラのマザールが存在する。筆者はそのマザールの調査と一族の歴史についての子孫からの聞き取りを目的に、ガイラト村を訪ねたのである。トラハーン氏は先祖について詳細を知らなかったが、「私たちには系譜書が残されている」と言って、件の史料を見せてくれたのである。

ところが、見せられたものは、前半をアフファーク・ホージャに至る系譜が占め、後半をアフファーク・ホージャの息子、ホージャ・ハサンの伝記が占める未聞の史料であった。はたして、アフファーク・ホージャの娘の子孫を自称する「マルギランのトラ」に属する所有者の系譜は、別紙に別インクで別人の筆によって書き足され、途中に継ぎ足されていたのである⁹⁾。

この史料は幅 27cm、長さ 852cm の巻物である。一般にコーカンド紙と称される紙が用いられ、全部で 15 枚の紙が縦に張り合わせてある。その張り合わされた各紙一枚の長さはおよそ 59cm である。本文は青いインクで、ナスターリーク体で書かれている。上述した一部の挿入部分は上から 8 枚目にあたり、黒いインクで書かれており、更にその中の前半と後半で書き手が異なる(図 1 参照)。書名、著者名、執筆年は書かれていないが、本稿では便宜上、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』と呼ぶことにする。

本史料には全部で 25 回印章が押されているが、一種類の印章が幾度も押されており、利用されている印章は三種に過ぎない。その

うち二つが、カーディー・ライースおよびカーディーの印であり、それぞれ「ムッラー・ムハンマド・アァザム・カーディー・ライース・イブン・バーバー・ナザル・バーイ (Mullā Muḥammad A'ẓam qāḍī ra'īs ibn Bābā Nazar bāy), 1294/1877-78 年」, 「ムッラー・タシュ・フラード・カーディー・イブン・ダームラー・ピール・ムハンマド・マルフーム (Mullā Tāsh Fūlād qāḍī ibn Dāmlā pīr Muḥammad marḥūm), 1301/1883-84 年」と読める。

この史料は、内容的には主に以下の三つの部分から成っている。第一の部分は系図であり、アードムから預言者ムハンマドまでが示されている。これより下が本文であり、チャガタイ語で書かれており、全部で 287 行と斜めに 7 編の 4 バイトの詩がある。第二部分、すなわち本文の前半部分 (1~101 行目) は、バスマラの後に、神と預言者ムハンマドに対する賞賛と「サイドを尊敬しなければならない」という内容のハディースからの引用であるというアラビア語とそのチャガタイ語訳が続く¹⁰⁾。その後、詩を交えながら具体的に預言者ムハンマドの子孫の系譜の記述がなされる。そして系譜がマフドゥーミ・アァザムを通じて最後にアフファーク・ホージャまで来た後、上述の継ぎ足し (102~118 行目) がある。第三部分、すなわち本文の後半部分 (119 行目~詩の終わり) では、アフファーク・ホージャの息子、ホージャ・ハサンの活動について述べられている。本文の最後に「これについてムハンマド・シッディーク・バルヒー (Muḥammad Ṣiddīq Balkhī) が詩を読んだ」と書かれており、詩で締めくくられている。本史料は、系図部分と後から挿入された部分を除けば、一般的な伝記によく見られる構成であり、本文は一つの作品であ

9) 河原 2005: 284-285。

10) いくつかのハディース集にもこれにあたるものは見られず、偽作である疑いがある。また、かつて紹介されたアフファーク統の史料にも同様のハディースとされる文句が見られるが、偽作の可能性が指摘されている。新免・菅原 2002: 37。

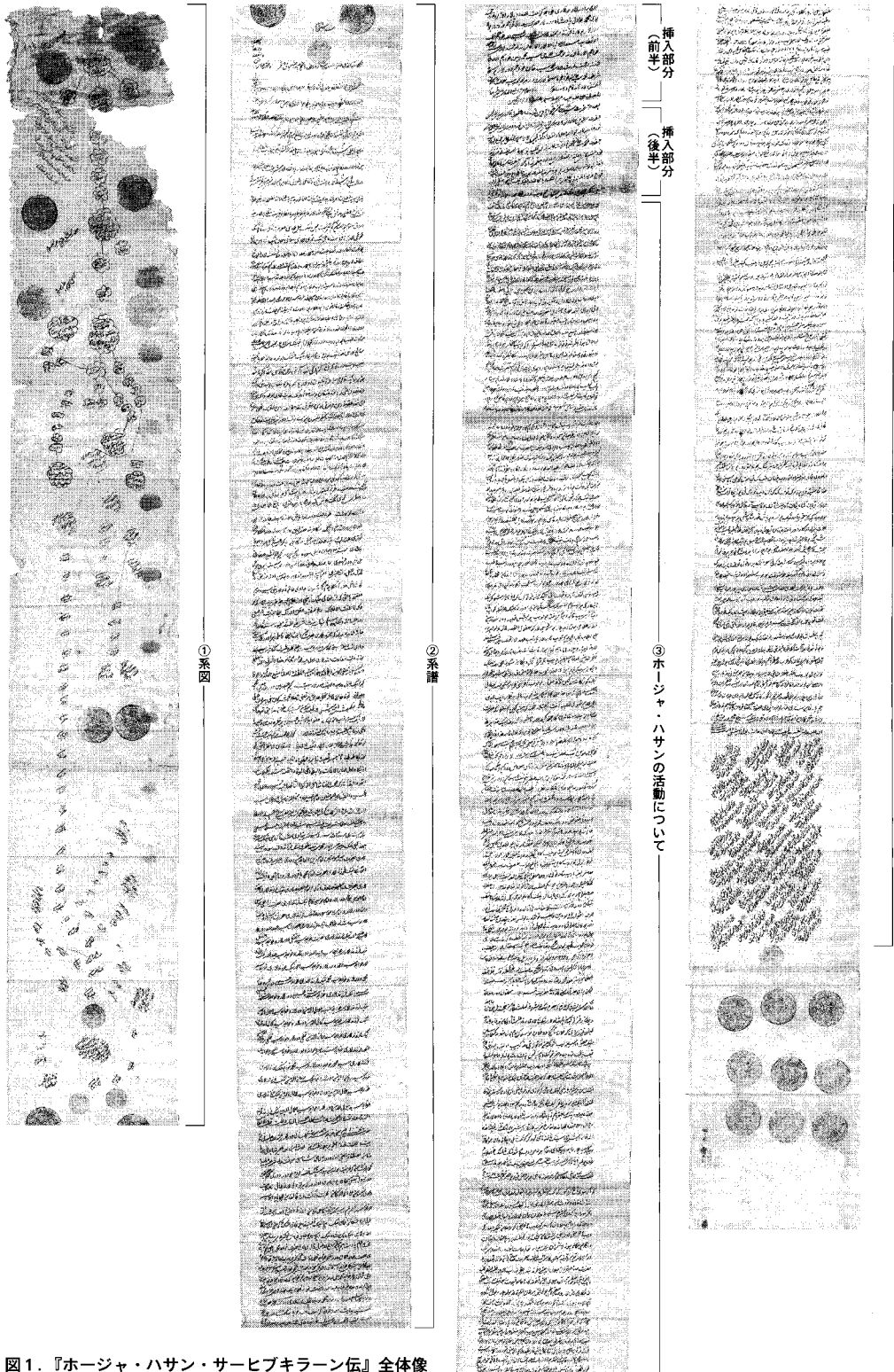


図1. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラン伝』全体像

ると考えられる。

ところで、別系譜の挿入がなされた際に、もともとの本文の一部が消されており(119行目)、あるいはその前の何行かが切り捨てられた可能性が高い。すなわち、挿入の前はヒダーヤトゥッラーのラカブがアフファーク・ホージャであるという記述で終わり、挿入の後にはホージャ・ハサンのラカブはサーヒブキラーンだったとの記述で始まる。しかしアフファークには五人の息子が知られており、一般的に伝記類には五人の名が列挙されるはずだが¹¹⁾、その部分が欠如していると思われる。実際に本史料に用いられたもともとの紙が一枚およそ59cmの長さなのに対し、挿入前後の紙は上下両方を足してもおよそ54cmしかない。このおよそ5cmの差には少なくとも2〜3行が含まれていたはずであり、あるいは紙何枚かと2〜3行だった可能性もある。この史料にカーディーの印章が押されていることから判断すると、このような系譜は何らかの行政上の特権を得るために持ち主が「サイド性」を証明すべく作成したと考えられる。しかし、この系譜の最後の部分が失われたことにより、作品執筆時のこの系譜の所有者、すなわちこの史料を書いたかあるいは書くのを依頼した人物が誰なのかを知る手がかりも失われたのである。継ぎ足された系譜は、現在の所有者の父方のおじ、サイド・アフファーク・ホジャム(Sayyid Āfāq Khwājam)で終わっているが(116〜117行目)、ワリーエフ氏はこれを今は亡きおじから譲り受けた際にホージャ・ハサンと自らの一族に関する説明を聞かなかつたため、もはやこの問題の解決は困難であろう。

2. ホージャ・ハサンの活動と生涯—他の史料との比較検討

ホージャ・ハサンに関しては、*Tadhkira-i*

*'azīzān*には、アフファークの子のうち、とりわけ教団の指導者として優れていたと特筆されているものの、彼の実際の活動についてはほとんど記述がない。すなわち、アフファーク・ホージャの死後、息子のホージャ・ヤフヤー(Khwāja Yahyā)が支配の座に就いたが、短期間で殺された。支配権を握ったチャガタイ家のアクバシュ・ハーン(Āqbāsh khān)はアフファーク・ホージャの他の子供たちをインドに追放したという¹²⁾。東トルキスタン史研究においても、ジャリロフが、後述する『アフファーク・ホージャ伝』に附した序文で、当該写本の内容を紹介したのと、バラノワが、旧ソ連に所蔵される*Tadhkirat al-Hidāyat*や、*Hidāyat-nāma*などのペルシア語史料を利用して、若干の検討を行ったに留まっている。この二点の史料は、アフファーク・ホージャの伝記として知られ、無論アフファーク統の立場から書かれている。バラノワは、ホージャ・ハサンは異教徒ジュンガルに対して幾たびも聖戦を行った英雄であり、カシュガル・ホージャ家の末裔が、異教徒に支配される故地奪回のために聖戦を行うという19世紀に一般化したモチーフはすでに18世紀初頭には確立していたと指摘している¹³⁾。

しかし、ホージャ・ハサンに関しては、バラノワの利用した二点の伝記や本稿で紹介する『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』以外にも、詳細な記述を持つ一次史料が存在する。未だほとんど検討されることのなかったこれらの史料を併せて検討することはアフファーク統の活動の一端を知る重要な手がかりになるであろう。

ホージャ・ハサン本人について詳しく書かれた伝記としては、管見の限り、二点の作品が存在する。一つは、『ムフリスたちの秘密(*Sirr al-mukhlisīn*)』(仮称)と称すべき作品で

11) 例えば、*Tadhkirat al-Hidāyat*: 111b-123a。

12) *Tadhkira-i 'azīzān*: 50a-53a。

13) Баранова, Ю. Г. 1983: 237-238。

ある。これまでに筆者が確認し得た同作品の写しであると考えられるチャガタイ語写本4点には様々な書名が付せられている¹⁴⁾。この作品は中華人民共和国の新疆维吾尔自治区で、『大霍加伝（大ホージャ伝）』の書名で、中国語への翻訳が出版されている¹⁵⁾。また近年、ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所（タシュケント）に所蔵されるチャガタイ語のテキストの全文が現代ウズベク語へ転写されて『アーファーク・ホージャ伝（*Āfāq Khwāja manāqibi*）』の書名で出版された。『大霍加伝』に付せられた訳者の序文によると、もとの作品はペルシア語で書かれており、一旦現代ウイグル語に翻訳された後、中国語に重訳されたという。残念ながら筆者は中国に存在するそのペルシア語写本を実見していないが、訳本の最初の頁に、アラビア語とペルシア語が混じった文章で「この本は『ムフリスたちの秘密（*Sirr al-mukhlīṣīn*）』と名付けられた¹⁶⁾と書かれている。これらのことから、この作品はもともとペルシア語で書かれたと考えることができ、またその書名は『ムフリスたちの秘密』であった可能性が高い。また、中国語訳本の40頁～67頁部分は、他のチャガタイ語写本には存在しない。

また、上の4点のチャガタイ語の異写本は、内容を同じくしているものの、文体が異なる。以上のことから、ペルシア語のオリジナルから、いくつかのチャガタイ語抄訳が作られたと結論付けることができよう。この作品は、前半がアーファーク・ホージャの伝記であり、後半がホージャ・ハサンの伝記である。もう一点は、『愛しき者たちの秘密（*Sirr al-ahbāb*）』（仮称）という、全く研究がなされていない作品である¹⁷⁾。この作品はホージャ・ハサン自身の生涯を、その誕生から墓地への埋葬まで記したものである。

次に、これらの史料から窺えるホージャ・ハサンの活動を概観した上で、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の内容の検討に移りたい。本稿では、特に断わりのない限り、以下の写本を利用した。

Muhammad Šādiq Kāshgharī, *Tadhkira-i ‘aẓẓm*, Staatsbibliothek Preuss.Kulturbesits, Ms. Or. 4-1313

Anonym, *Tadhkirat al-Ĥidāyat*, Институт востоковедения Академии наук Республики Узбекистан, инв. 10051

Mir Khāl al-dīn kātīb Yārkaṇdī, *Hidāyat-nāma*, Институт востоковедения Академии

14) India Office Library mss.Turki-9 (以下 IOL.Turki-9 と称す) には *Risāla-i Tadhkirat al-Hidāyat bil-khairiyat* (1b) の書名が、また Lund UB Handskriftsavn.Prov.22 (以下 Lund22 と称す) には *Tadhkira-i Ḥaḍrat sayyid Āfāq Khwājam* (1a) の書名が、Институт востоковедения Академии наук Республики Узбекистан, инв. 3426 には *Āfāq Khwāja manāqibi* (Жалилов, О. 2001: 23 参照) の書名がつけられている。一方、Staatsbibliothek Preuss.Kulturbesits, orientabteilung, 4-1316 (以下 Berlin4-1316 と称す) には、書名は書かれていない。

15) 『大霍加伝—新疆宗教研究資料第十二輯』新疆维吾尔自治区社会科学院宗教研究所, 1986。

16) 原文は、Hādha al-kitāb ba sirr al-mukhlīṣīn nām nahāda shud.

17) 『愛しき者たちの秘密』（仮称）の書名は未だ確定されていない。筆者はこれまでに同作品の写しであると考えられる5点のチャガタイ語写本を確認することができた。Staatsbibliothek Preuss.Kulturbesits, orientabteilung, 8-1685 (以下 Berlin8-1685 と称す) :3b 及び、中華人民共和国新疆维吾尔自治区ウルムチ市で私蔵される写本 (以下ウルムチ写本と称す) :6b には、『コーランの注釈 *Sharḥ-i qur’ān*』の書名がつけられている。あるいは、書名の「コーラン qur’ān」の語は、サーヒブキラーンの「キラーン qirān」の語と掛けられたものかも知れないが、本作品の書名としては不自然である。一方、同自治区ヤルカンド市で発見され現在は菅原純氏が所有する写本 (以下ヤルカンド写本と称す) には、この『愛しき者たちの秘密』(7b) という書名がつけられている。India Office Library mss.Turki-10 (以下 IOL.Turki-10 と称す) は、該当箇所が空欄である。筆者は、聖者伝であるというこの作品の内容から、同作品の書名としては『愛しき者たちの秘密』が相応しいと判断し、本稿では便宜的にこの書名を用いることにした。なお、ヤルカンド写本及びウルムチ写本の写真を快く利用させて下さった菅原純氏に感謝する。また、IOL.Turki-10 は、2004 年度に開催されたチャガタイ語読書会で輪読し、参加者の方々から貴重な意見を頂戴した。

наук Республики Узбекистан, инв. 1682
 Anonym, (『ムフリスたちの秘密』 *Sirr al-tukhlīṣīn*), Жалилов, О., *Офоқ Хожа маноқиб*, Андижон, 2001, (Институт востоковедения Академии наук Республики Узбекистан, инв.3426)

Anonym, (『愛しき者たちの秘密』 *Sirr al-ahbāb*), India Office Library mss.Turki-10

さて、ホージャ・ハサンは、17世紀の末に生まれたと考えられる。また、アーファーク統系の各史料では「サーヒブキラーン」の美称で称えられる。

ホージャ・ハサンは、アーファーク・ホージャと、アブドゥッラシード・ハーン (‘Abd al-Rashīd khān) の娘ハースム・パードシャー (Khānum Pādshāh) との間に生まれた¹⁸⁾。アクバシュ・ハーンがヤルカンドを手中に入れた後、ホージャ・ハサンは、兄弟であるアブドゥッサマド (‘Abd al-Ṣamad), マフディー (Mahdī), ブルハヌッディーン・クルチ (Burhān al-dīn Qilich) とともに旅に出た¹⁹⁾。父が亡くなったのはホージャ・ハサンが5才の時であり、母が亡くなったのは7才の時だったという²⁰⁾。

彼らはバダフシャン、カーブル、カシュミールを旅した²¹⁾。バダフシャンの支配者はチンギス・ハーンの子孫のミール・バーバー・ハーン (Mīr Bābā khān) であり、彼らはこの支配者のもとで3年ほど暮らした²²⁾。その後、彼らはカシュミールに行き、半年暮らした。ホージャ・ハサン以外の3人はここからインドに向かったが、ホージャ・ハサンはカ

シュミールに残った。カシュミールにはサイイド・アリー・ハマダーニー (Sayyid ‘Alī Hamadānī) という人物の子孫なるアブドゥッラー (‘Abd Allāh) という名の一人の聖者がいた。彼は娘をホージャ・ハサンに与えた²³⁾。

『愛しき者たちの秘密』の記述順によれば、この頃ホージャ・ハサンはカシュガルの奪回を望み、ヒサル、クラーブ、カラテギンを旅し、4万の兵を集めた。アンディジャンでも1年過ごし、アンディジャンとマルギランで千人の兵を集め、アライ地方でクルグズから兵を増強した。カシュガルを占領し、王座に座り、さらにヤルカンドに進軍した。こうしてジュンガル (史料中ではカルマク (qālmāq)) と戦ったという。ただ、これがいつにあたるのかは定かではない²⁴⁾。

『愛しき者たちの秘密』によれば、その後ホージャ・ハサンはブハラを訪れたが、その際、シャー・ムラード・ハーン (Shāh Murād khān) の父が彼を歓待したという。ただし、それがシャー・ムラード・ハーン之父ダーニヤール・ビー・アタリク (Shāh Dāniyāl bī Atāliq) (1758-1785) であるとする、時代が合わない、このエピソードは後代の創作か、あるいは書き間違いであろう。そしてサマルカンド、ダフベード、フジャンドなどに行き、その後フジャンドからマルギランに入った。何人かはマルギランに残ったという²⁵⁾。一方、『ムフリスたちの秘密』によれば、ブハラでは8ヶ月を過ごした²⁶⁾。『ムフリスたちの秘密』の中国語訳本には、フジャ

18) 『愛しき者たちの秘密』 5a-9a。

19) 『ムフリスたちの秘密』 41-42, 『愛しき者たちの秘密』 13b。

20) 『愛しき者たちの秘密』 13a。ただし、バラノワは父が死亡した時のハサンの年齢を7才半としている。Баранова, Ю. Г. 1983: 237。

21) 『愛しき者たちの秘密』 13b-15b。

22) 『ムフリスたちの秘密』 45。バダフシャンの支配者、ミール・バーバー・ハーンを同定することはできなかった。Абаева, Т. Г. 1964, *Ta’rīkh-i Badaḥiūn* 1997。

23) 『ムフリスたちの秘密』 45-46。

24) 『愛しき者たちの秘密』 15b-28b, *Hidāyat-nāma*: 171a。

25) 『愛しき者たちの秘密』 29a-47a。

26) 『ムフリスたちの秘密』 46。

ンドの支配者でアクブタ・ビーという人物と交際していたという記述がある²⁷⁾。

『ムフリスたちの秘密』によれば、今度はインドに向かった。当時のインドの王はチンギス・ハーンの子孫で、名をオルンディーブ(Üründib)と言った。オルンディーブとはチャガタイ語で「座を飾る」の意であり、同じ意味のペルシア語「アウラングゼーブ(Awrangzib)」の訳語であると考えられる。ホージャ・ハサンは先に別れた兄弟とも合流し、オルンディーブのもとで5年間暮らした。するとカシュミールに残っていたホージャ・ハサンの5才になる娘、ハージー・ハヌム(Hājjī Khānum)が亡くなったとの知らせが入った²⁸⁾。一方『愛しき者たちの秘密』によれば、ホージャ・ハサンがインドで結婚したのは、インドに住んでいたマフドゥームザードの娘だったという。子供が産まれたがすぐに亡くなったという点は『ムフリスたちの秘密』と一致している²⁹⁾。

その後、ヘラートを経由して再びブハラに行った。ブハラの支配者の名はアブルガーズィー・ハーン(Abū al-Ghāzi khān)だった。このハーンには、アブルファイズ(Abū al-

Fayz)というワズィールがいて、ホージャ・ハサンはこのワズィールと交流の後、「お前にブハラを与えた」と言ったという³⁰⁾。『ムフリスたちの秘密』の中国語訳本によると、ホージャ・ハサンがブハラを再訪した際には、ブハラのハーンは実際にアブルファイズ・ハーンになっていたという³¹⁾。カラテギン、ヒサル、クーラーブなどではナクシュバンディー教団の教えを布教した³²⁾。

そして、ヒサールのカラタグ(Qarātāgh)(史料によってはカラタル(Qarātāl)³³⁾)という町に出かけた。その際、町の名に言葉をかけて、「悪いこと(qarāliq)が起こる」、あるいは「カラタグルク(qarātāghliq)になってしまう」ことが暗示されている。その町の支配者ムハンマド・ラーズィー(Muhammad Rādi)³⁴⁾に彼は毒入りのピラフを食べさせられ、仲間たちと共に殺されたという³⁵⁾。

ムハンマド・ラーズィーはホージャ・イスハーク・ワリーの子孫であったという³⁶⁾。遺体はカシュガルのアフアーク・ホージャのマザールに埋葬された³⁷⁾。死亡年は各史料によって異なるが、1139年ムハッラム月27日／1726年9月23日に39歳で死亡したとい

27) 『大霍加伝』65-66。

28) 『ムフリスたちの秘密』46-49。

29) 『愛しき者たちの秘密』50b-51b。

30) 『ムフリスたちの秘密』51-53。アブルガーズィー・ハーンをこの頃のブハラの支配者たちのなかに同定することはできなかった。

31) 『大霍加伝』50。

32) 『愛しき者たちの秘密』52a-55a。

33) Жалилов, O. 2001: 58, IOL.Turki-9: 117a, Berlin4-1316: 41b, IOL.Turki-10: 65a, ヤルカンド写本105b。また, Lund22: 55bでは, Qarātāl。カラタグはヒサールの近郊のカラタグダリヤ川沿いの町である。

34) この他にも, Mamat Rādi (IOL.Turki-9: 117a), Mamar Rādi (Berlin8-1685: 170a, Berlin8-1655: 115a), MamarArādi (ウルクチ写本110b)などのヴァリエントがある。

35) 『ムフリスたちの秘密』58-59, 『愛しき者たちの秘密』65a-68b。『ムフリスたちの秘密』によると、この事件でホージャ・ハサンは14人の仲間と共に死亡したという。一方『愛しき者たちの秘密』のうちIOL.Turki-10及びヤルカンド写本では24人の同行者のうち12人が死亡したといい、Berlin8-1685及びウルクチ写本では6人が死亡した。

36) 殆どの写本で、ホージャ・サーキー・ワリー(Khwāja Sāqī Wali)と綴られており、ホージャ・イスハーク・ワリーと綴られているのは, Lund22: 55bのみである。しかし、どの写本でも、サーキー・ワリーがマフドゥーム・アファザムの息子であったこと、イーシャーニ・カラーンと対立したこと、シャードーという名の息子がいたことなどが説明されており、サーキー・ワリーがイスハーク・ワリーを指していることは疑いない。

37) 『ムフリスたちの秘密』61, 『愛しき者たちの秘密』70b-89a。

う説が有力である³⁸⁾。

以上が各聖者伝から窺えるホージャ・ハサンの活動の概要であるが、さて、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の記述のうち、まず第一部分の系図については、アードムから預言者ムハンマドに至らせる一般的な系譜であると思われる。続く第二部分についても、ムハンマドからマフドゥーミ・アァザムを経由し、アーファーク・ホージャに至る系譜は、他の関連史料においていくつかのバージョンが見られるものの、大きな相違点は見られないため、本稿では検討しないことにする。

最後の第三部分の内容は、他の史料『ムフリスたちの秘密』と『愛しき者たちの秘密』のモチーフと基本的には似ているものの、若干異なる独自の内容を含んでいる。一作品としてはやや短く、省略されている点が多くあると思われる。(II.『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』日本語訳を参照のこと)

すなわち、ホージャ・ハサンは父の死後、アクバシュ・ハーンとの争いによってではなく、「異教徒たち」と戦い、そのためにカシュガルを離れ、旅に出掛けたことになっている。そしてはじめは七城 (Yeti shahr), すなわちタリム盆地周縁部を巡り、その後インドに行った (118-133 行目)。そして他史料ではブハラ支配者の名として挙がっていたアブルガーゾー・ハーンはインドの支配者として書かれている。ホージャ・ハサンは彼の娘と結婚した。他史料と異なり、娘ではなく、息子が生まれたが、夭逝した (133-143 行目)。その後彼はカーブルに移動した。この

頃、カルマクのホンタイジ (hūngtāji)³⁹⁾ がホージャ・ハサンを殺そうと策略をめぐらせていた (143-157 行目)。

カルマクと結託したのは、カラタル (Qarātāl)⁴⁰⁾ の町のムハンマド・リザー・ベク (Muḥammad Ridā bīk) という支配者であった。他史料に出てきたいくつかの呼び名 Muḥammad Rāḏī, Mamat Rāḏī, Mamar Rāḏī, MamarArāḏī は、このムハンマド・リザーの訛りと考えることができよう。ホージャ・ハサンはムハンマド・リザー・ベクの偽りの手紙に騙されてカラタルの町に来るが、この後の話は、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』に独特である。カラタルの町でホージャ・ハサンはイランの伝説的な王朝カヤーン朝の血を引くラービア (Rābi'a) という娘と結婚する。『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』にはこのラービアとの結婚のいきさつが非常に詳しく述べられている。すなわち、ラービアはかつて、「いつか町にやって来るある人物こそがお前の結婚相手である」という夢のお告げを信じ、自分を「狂人 (divāna)」のように見せて、誰も結婚せずにいた。ホージャ・ハサンがカラタルに近付くとラービアはまた夢でお告げを聞き、自分の相手がホージャ・ハサンであることを知る。ラービアにはムハンマド・リザー・ベクのもとで軍人をつとめる兄がいたが、兄に、「啞で聾で盲でかたわの妹と結婚していただけないか」とホージャ・ハサンに伝えさせるのである。兄のこの言葉を聞いてホージャ・ハサンは同意し、ラービアと結婚した (157-211 行目)。ところが2ヶ月後にホージャ・ハ

38) 各史料には、1. 1106年ムハッラム月27日/1694年9月17日、『ムフリスたちの秘密』Berlin8-1685:186b, ウルムチ写本116a, 2. 1139年ムハッラム月27日/1726年9月23日土曜日の夜に39歳で、『大霍加伝』79, 3. 1206年ムハッラム月27日/1791年9月26日、『愛しき者たちの秘密』IOL.Turki-10:70b, ヤルカンド写本116aの三つの死亡年が見られる。ホージャ・ハサンは父アーファーク・ホージャの死亡(1694年)後に活動していることから、1は退けられる。一方、1142/1729-30年頃に書かれた *Hidāyat-nāma* にホージャ・ハサンの死亡記事があることから、3も退けられる。

39) 西方侵略を進め、タシュケントやサイラムなどの町を占領していたホンタイジ・ツェワンラブダン(1694-1727)を指していると思われる。宮脇1995:209-210。

40) 註33を参照。

サンは夢でお告げを聞き、自分の死が迫っていることを知る。そしてラービアに、自分の死後息子が生まれるが、この町には住まず、ハトラーン (Khatlān) 地方に逃れて暮らすようにと遺言する (211-227 行目)。

実際にムハンマド・リザー・ベクはピラフに毒を盛り、ホージャ・ハサンを殺すが、彼の死後7ヶ月後にラービアは息子を産む。そして一族はホージャ・ハサンの遺言通り子供にホージャ・ムハンマド・カースィム (Khwāja Muḥammad Qāsim) と名付け、ハトラーン地方に移住し、サイヤード (Sayyād)⁴¹⁾ という町で生き延びるのである (227-287 行目)。死亡年は記されていない。

3. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の特徴

上で比較検討したように、すべての史料において、彼は旅をしながら異教徒ジュンガル (史料中ではカルマク) と戦った英雄であり、カラタグ=カラタルでムハンマド・リザー・ベクに毒殺され、殉教者になったというモチーフで語られている。このことは、ホージャ・ハサンのイメージがこの点に凝縮されていたことを意味しているが、他の史料からこれらの事件を裏付けることは現在のところ難しい。

『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の最大の特徴は、カラタルで結婚したラービアとの間に子供が生まれ、ハトラーン地方のサイヤードという町で生き延びたことが非常に詳しく述べられている点である。他の二史料では、ホージャ・ハサンがインドで高貴なる出自の娘と結婚し、子供に恵まれたものの、子供は夭逝したと記されていた。このことは、この作品が、ホージャ・ハサンにはサイヤードという町に子孫が存在する点を証明

しようとしたことを如実に示唆している。また、このラービアという娘がカヤーン朝の血を引くという点も興味深い。イランの伝説的な英雄を自らの系譜に組み込むというのは、他の史料にも見られる手法であり⁴²⁾、当時の当該地域の精神世界を垣間見ることができよう。

さらに注目されるのは、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』においては、カラタグという町の名に対する嫌悪感が示されていないことである。また、他の史料と異なり、ムハンマド・リザー・ベクがイスハーク・ワリーの子孫だと記されていない。すなわちバラノワは、ホージャ・ハサンの殺害の理由をイスハーキヤ (後のカラタグリク/黒山党) とアフファーク統の対立に求め、「ホージャ・ハサンはヒサルールのカラタグという町でホージャ・イ・カラタギーに殺された」とされるが、カラタグルクの間違いかも知れない。というのも、このホージャはイスハーク・ワリーの子孫だったからである」と指摘しているのである⁴³⁾。この二つの点に沈黙する『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』は、東トルキスタンにおけるイスハーキヤとアフファーク統との対立に無関心であるかのようなようである。

ところで、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』に用いられているチャガタイ語には言語学的に興味深い特徴がある。それは、三人称所有接尾辞のあとに与格語尾が付いた時、当該地域で一般的な-gä/-ghaの代わりに、-nä/-naが用いられていることである (9-10, 11, 17, 20, 31, 37, 38, 41 行目など多数。アラビア文字テキストを参照)。これは、チャガタイ語に対するオグズ語群やキブチャク語群からの影響であり、このような表現から、著者が西方のチュルク諸語の影響

41) 現在のタジキスタン共和国ハトラーン (Хатлон) 州シャフリトゥス (Шахритус) 郡サイヤード (Сайёд) のことを指していると思われる。

42) 新免・菅原 2002: 39。

43) Баранова, Ю. Г. 1983: 239-240。

を受けていた可能性もある⁴⁴⁾。このことは、この作品が東トルキスタンではなく西トルキスタンで執筆された可能性を示唆している。また、何ヶ所か、ペルシア語の訳し忘れと思われる箇所（171, 236行目）があり、この作品はペルシア語からの翻訳であった可能性もある。

また、この史料がいつ、どこで、誰によって、何のために書かれたのかを考えなければならない。まず、押印から、この巻き物がイスラーム法廷で承認されたものであることは確実である。このことから、子孫が免税などの特権を享受するために、自らの「サイド性」を文書で証明すべく、法廷に持ち込んだと考えるのが自然である。作品の執筆年自体は不明であるものの、押された印章の示す年号から、これに印が押されて認証されたのは早くとも1884年以降のことであると考えることができる。さらにこのことは、19世紀末にホージャ・ハサンの子孫を称する人物が存在したことを示唆する。というのも、この息子かあるいはその子孫が系譜をすでに途切れさせて、子孫を残さなかったとすれば、この写本が法廷で認証を受ける必要もなかったからである。

そして、執筆場所としては、この史料が見つかったフェルガナ盆地か、ホージャ・ハサンが死亡したヒサル地方か、あるいは史料が示している移住地、ハトラーン地方のうちのどれかである可能性がもっとも高かろう。ところで、二つの印章の年号はいずれも、フェルガナ盆地を支配したコーカンド・ハーン国の滅亡以後の時代を示している。フェルガナ盆地は1876年以降ロシア帝国の支配下に入る。ムスリムを統治するカーディー法廷はその後も存続したが、そのような政治状況下でホージャ・ハサンに関わる系譜やタズキラが法廷で承認されて押印されたとは考えにくい。一方でヒサル地方やハトラーン地方

は、1920年まで保護国として存続したブハラ・アミール国の領土であった。このことから、執筆地は不明であるものの、この史料が承認されたのは、ブハラ・アミール国内のいずれかの町のイスラーム法廷である可能性が高い。しかし残念ながら、印章のみからそれを確認することは難しい。

上述したように本作品には著者の名もない。唯一、詩の作者としてムハンマド・スィッディーク・バルヒーの名が挙がっているが、彼は作品中で「今は亡き (marhūm)」と記されているので、この作品全体の著者は別人である。また、現在のところこのバルヒーを歴史文献の中で同定することもできない。

本作品の歴史史料としての価値を見定めるのは現時点では難しい。東トルキスタン史研究の上でよく知られている諸史料にはホージャ・ハサンに関する記述は少なく、一方で本稿で扱ったような、ホージャ・ハサンを主人公とする聖者伝には、年代や歴史事件に関する記述が少ないためである。本作品の内容の信憑性や独自性、史料価値については、他のホージャ・ハサンに関する聖者伝も含め、新たに西トルキスタンの史料との比較対照を行って検証する必要があるだろう。

おわりに

以上考察してきたように、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』に描かれたホージャ・ハサンの旅は、非常に広い地域に及び、旅先では現地の支配者らと興味深い関わりを持っている。このことはアーファーク統の成員の影響力が広い地域に及んでいたことを示唆する一方、彼らが自らの権威を高めるために他の様々な権力を借りようとしていたことも表している。また、『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』はハトラーン地方のサイヤードという町にアーファーク統の子孫が生き延びたという、他の史料には見られ

44) 菅原 1991: 92-93。

ない情報を提供している。無論、その信憑性については検討を要するが、このような作品を執筆して、自らをその子孫と主張する人物、あるいは集団がいたことはほぼ確実である。なおかつそれが、イスラーム法廷で認められ、当該地域で何らかの意味をもったのである。このような観点から『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』が発見された意義は大きいと言えよう。

一方でイスハーク・ワリーの子孫でカラタグの町の支配者、ムハンマド・リザーは一体何者で、如何なる事情でホージャ・ハサンを毒殺したのかなどの問題については十分に検討することができなかった。『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』を他種の歴史史料と比較する本格的な研究は別の機会に譲りたい。

本稿は、平成十七年度文部科学省科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による研究成果の一部である。

参 考 文 献

欧文

- Абаева, Т. Г. 1964 *Очерки истории Бадахшана*, Ташкент.
- Абашин, С. Н. 1999 *Чилтаң, Ислам на территории бывшей Российской империи, Энциклопедический словарь*, выпуск 2, Москва, стр. 118-120.
- Абашин, С. Н. 2003 *Бурханиддин-Кылыч: ученый, правитель, чудотворец? О генезисе культа святых в Средней Азии, Подвижники Ислама, Культ святых и суфизм в Средней Азии и на Кавказе*, Москва, стр. 215-236.
- Babadžanov, V. M. 1996 *On the history of the Naqšbandiyya Muğaddidiyya in Central Māwarāʾannahr in the late 18th and early 19th centuries, Muslim Culture in Russia and Central Asia from the 18th to the early 20th centuries*, Berlin, pp. 385-413.
- Баранова, Ю. Г. 1983 *Из истории освободительной борьбы уйгурского народа в первой половине XVIII в., Актуальные проблемы советского уйгуроведения (Материалы I Республиканской*

уйгуроведческой конференции), Алма-Ата: 236-240.

- Жалилов, О. 2001 *Офок Хожа манокчиби*, Андижон.
- Кавахара, Я. 2004 *Офок Хожанинг ўғли «Хожа Хасан шажараси» ҳақида, Шарқиунослик*, 12, Тошкент: 89-103.
- Kügelgen, A. v. 1998 *Die Entfaltung der Naqšbandiyya Muğaddidiyya im Mittleren Transoxanien vom 18. bis zum Beginn des 19. Jahrhunderts: ein Stück Detektiv Arbeit, Muslim Culture in Russia and Central Asia from 18th to the Early 20th Centuries. Vol.2: Inter-Regional and Inter-Ethnic Relations*, ed. by Anke von Kügelgen, Michael Kemper, Allen J. Frank, Berlin, pp. 101-151.
- Манакиб-и Дукчи Ишан, 2004 *Манакиб-и Дукчи Ишан (Аноним жития Дукчи Ишан — предводителя Андижанского Восстания 1898 года), Введение, перевод и комментарии: Б. М. Бабаджанов, издатель: А. фон Кюгельген, Ташкент-Берн-Алматы.*
- Ta'riḫ-i Badaḫshān* 1997 *Ta'riḫ-i Badaḫshān («История Бадахшана»)*, Факсимиле рукописи, Издание текста, перевод с персидского А. Н. Болдырева при участии С. Е. Григорьева, Введение А. Н. Болдырева и С. Е. Григорьева, Примечания и приложения С. Е. Григорьева, Москва.

邦文

- 河原弥生 2005 「コーカンド・ハーン国におけるマルギランのトラたち—ナクシュバンディ—教団系の聖者一族に関する一考察—」『日本中東学会年報』20(2): 269-294.
- 小松久男編 2000 『中央ユーラシア史』山川出版社。
- 佐口 透 1963 『18-19世紀東トルキスタン社会史研究』吉川弘文館。
- 澤田 稔 1987 「ホージャ・イスハークの宗教活動—特にカシュガル・ハーン家との関係について—」『西南アジア研究』27: 57-72。
- 澤田 稔 1991 『『タズキラ・イ・ホージャガーン』研究についての覚え書き』『帝塚山学院短期大学研究年報』39: 1-15。
- 澤田 稔 1996 「ホージャ家イスハーク派の形成—17世紀前半のタリム盆地西辺を中心に—」『西南アジア研究』45: 39-61。
- 澤田 稔 2005 「オアシスを支配した人々—17世紀ヤルカンドの事例—」『ユーラシア草原からのメッセージ—遊牧研究の最前線』: 290-315, 平凡社。
- 新免 康 1987 「ヤークーブ・ベグ政権の性格に関する一考察」『史学雑誌』97(4): 1-42。
- 新免 康・菅原 純 2005 「カシュガル・ホージャ家アーファーク統の活動の一端—ヤーリン

- グ・コレクション Prov.219 について—』『東洋史研究』61(3): 33-63。
- 菅原 睦 1991 「チャガタイ・トルコ語の発展における非カルルク型形式」『アジア・アフリカ言語文化研究』41: 91-100。
- 羽田 明 1982 『中央アジア史研究』臨川書店
- 宮脇淳子 1995 『最後の遊牧帝国, ジューンガル部の興亡』講談社選書メチエ。

II. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』アラビア文字テキスト

本章では『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』の系図を除く部分全文のテキスト化を試みる。史料における行番号を(10)のように挿入したが、史料において一単語が二行にまたがっている場合は、その単語の後ろにずらして挿入した。途中の後世挿入部分の位置を前後に*****を入れて示した。史料中で誤って書かれていると思われる綴りについては訂正し、原綴を註に示した。史料中ではしばしば ب, ن, ی の文字の点が打たれて

いなかったり、曖昧に書かれている例が見られるため、点を打ち、適当な綴りに書き改めたが、これらについては特に註記はしなかった。その他の原綴が一般的でない場合で原綴をそのままテキストに採用した箇所は、註にその旨記した。本史料においては، ب, ج, گ, の文字はそれぞれ, ب, ج, ك の文字と明確に区別されていない。本稿では利用の便を考慮して、発音を正確に反映する前者の文字を採用した。ただし、動詞の連用形については, ڤではなく, ڤを用いた。また、史料には句読点は打たれていないが、適宜付け加えた。

また、[] 記号は、史料には書かれていないが必要とみなして挿入した語句を示す。# 記号は、史料には書かれているが、不要であるとみなしてテキストには採用しなかった語句の場所を示しており、その削除された語句は註において示した。

بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الذى خلق السموات و الارض بالنجوم و الشمس و القمر و الجنة و الرياض و القصور و الطوبى و الكوثر و للمشركين و المنافقين عذاب النار و السقر و وجد الارض بالجبال و الابحار و الريحين و الشجر و الجبال بالنباتات و الكلا و التراب و الحجر و الابحار بالجواهر الطبقة(؟) كالسمن و اللؤلؤ^١ و الكهر و الريحين بالشم و الزينب و الرب و الغر و الشجر بالاصل و الفرع و البر و الثمر. نشهد ان لا اله الا الله الواحد القديم حى الاكبر و نشهد ان محمداً عبده و رسوله و هو شافع^٢ اليوم المحشر. صلوة الله و ملائكته^٣ و انبياء و رسوله على سيدنا محمد و آله و اصحابه بعد ذرأة بل منه الاكثر. آمين برب العالمين.

حمد خدا و درود^٤ خاتم الانبياء دين كين عاليمقدار پادشاه لار شريعت اطوار شهريار عدالت كردار سلطانلار ديانت آتار خاقانلار اخلاق الابر(؟) اميرلار ضمير منير قمر تنويرلارينه (10) فراست^٥ اعيان امرالار هدايت برهان علمالار بدايت عنوان فضلالار فلاتون نشان عقلالار^٦ مدقق بيان خردمندلار خاطر^٧ عاطر^٨ دريا مقاطر^٩ خيريت مظاهرلارينه انداق معلوم بولسون كيم شريعت چمن نينگ بلبل لارى معرفت شكرستانى نينگ طوطى لارى فراست باغى نينگ قمرى لارى معانى آسمان نينگ شاهين لارى بلاغت شعارلار فصاحت مورخلار معدن الاسرار دانشمندلار الوغ الطاف لاريدين روزگار خلقينى سرافراز ايلاب انداق حكم قليب دورلار كيم هر گوهرىكه سيادت درياسيدين و يا هر لعليكه رسالت كانيدين و يا هر سرويكه نبـوه حديقه سيدين بولسه اوشل همايون شرف اوزره سينه واجب و لازم دور كيم اجداد و آباء مبارك اسم لارينى شجره بوستانى دين دواير ميدانيدين صحايف عرصه سيدين احورى(؟) اعصار ايلينه منظور ايلاب بيان احوال قيلسون تا كه مؤمن^{١٠} بنده لار بو احاديث شريفغه عمل قليب اعزاز و اكرام (20) توقيير و احترام ايلاب دنيا

^١ اللؤلؤ^٢ شافع^٣ ملائكته^٤ دورود^٥ فراست^٦ عقلار^٧ خاطر^٨ عاطير^٩ مقاطير^{١٠} مؤمين

و عقبا دولتینه مشرف بولغی لار.

قال رسول الله صلى الله عليه و سلم اكرموا اولادى الصالحون لله و الطالحون لى يعنى پیغمبر علیه السلام دربار شکر نثار مبارک تیل لاریدین مرحمت قیلیب بویوروب دورلار کیم اکرام قیلینگ منی اولادیمنی #^{۱۱} صالح لارینی خدانینگ یولیده و فاجرلارینینگ منینگ یولومده. ایضا مهربانلیق قیلیب ایتیب دورلار کیم من اکرم آلی فقد اکرمنی و من اکرمنی فقد اکرماله #^{۱۲} یعنی عزة قیلسون اولادیمنی گویا عزة قیلغان بولسه منی و هر کیمکه عزة قیلسون منی گویا عزة قیلغان بولسه خدانی و بولک حدیث لاری بولدور که من حقر آلی فقد حقرنی و من حقرنی #^{۱۳} فقد حقر الله و من حقر الله فهی ملعون فی الدین و الدنیا یعنی هر کشیکه تحقیر قیلسون یعنی پست توتسه اولادیمنی گویا پست توتغان بولسه منی و هر کیمکه پست توتسه منی گویا پست توتغان بولسه خدانی و هر آدمیکه پست توتسه خدانی ایکی دنیاغه پروردگارنی (30) لعنتیگه گرفتار بولور. قیامت کونی کافرلارنی قطاریدین قویوف دوزخ عذابیدین قتولماس دور. نعوذ بالله من الذالک.

اندین سونگ دین کشورینی امام لارینه آمین مملکتی نی حکام لارینه واضح و لایح بولسون کیم اول صداره^{۱۴} کاینات خلاصه و زبده موجودات حضرت حبیب آله طیب علت گناه عاصی لارغه پشت پناه محشر کونیده شفاعت خواه خدانی سریدین آگاه پیغمبر خلیغه شاه آدم غه صدقنی گوهری انبیا گروهینی^{۱۵} سروری اولیا جماعه سینی رهبری ملت و مذهب نی حواری^{۱۶} چنانچه اینینگ وصفیده عزیز کیلتوروب دورلار کیم

بیت

گرچه بوزی یر یوزیگا آسمان دور منظری	کرسی تخت عرش تکیه لوح پر سر دفتری
باغ گلزار سرای دور اینینگ سکز بهشت	طوبی جنت دورار(؟) ^{۱۷} باش اوزره سینه چادری
حور غلمان ایرور خدام اینینگ در گاه یینه	منزلین اور تاسینه دور انگلا حوض کوثری
عندلیب وصفیده دور اسرافیل میکائیلی	چاکری عزرائیل جبرئیل ایرور (40) پیک دری

^{۱۱} ای امت لاریم

^{۱۲} یعنی هر مؤمنینگ اکرام

^{۱۳} و من حقرنی

^{۱۴} ؟ سرور؟

^{۱۵} کروننی؟

^{۱۶} حواوری

^{۱۷} دورارا

بسکه معراجین دلیلی سورهُ و النجم ایرور کیم الم نشرح صفاتی بل آتی^{۱۸} دور افسری
 عارضینینگ وصفیده و الشمس دور حرماسینه چون مزبیل نازل و اللیل زلف عنبری
 التماس ایتسه خدا درگاهیدین اول نور حق عاصیلارنی شافعی دور تانگلا یوم المحشری

و اول عالم نی وجودینی سببی و آدم^{۱۹} خلقتنی باعثی که حق تعالی اینینگ قریبنی اوز کلام مجیدغه خبر
 بریب دور که لولاک لما خلقت الافلاک. عاجز صفتیده عقل و ادراک یعنی حضرت محمد صلی الله علیه و
 آله^{۲۰} و اصحابه و سلم نینگ بنت شریفه لطیفه میمونه مستوره صالحه عابده طاهره مبارکه محترمه لاری
 حضرت خیر النسا یعنی فاطمه زهرا دورلار رضی الله عنها
 و اول نسب دخله سیننی نوری و دری و جنت ریاضینی گلی و شرف کنارینی سنبلنی فرزند دلبنند
 سعادت مند لاری اول عبد الخاص^{۲۱} خدا اشرف الال مصطفی (50) اسعد النسل مرتضی مخزن الجود و
 السخا معدن اللطف و العطاء منبع الصدق و الوفا کیم اینینگ عالی مدحیده ایتیب دورلار.

بیت

کیم حسین دور نور عین محمد مصطفی قسوة جان فاطمه نخل صدیق مرتضی
 تانگلا محشر کون نبی برلان علی و فاطمه قیلیمیش ایرمیش لار طلب حقدین حسینینگ خون بها
 حق تعالی عاصی لارنینگ حرم عصیان نینگ عفو ایلارمیش حسین بر قطرة قانین وجهیدا
 ایکی دنیا نینگ چراغی دور اینینگ فرزندلاری گر که بولسه هر کیم نینگ چشم بینش کونگلیگا
 هر کیشی مومن بوسه ایلار اینینگ اولادینی باسقان از تفراغینی ایکی کوزگا طوطیا
 تا میسر قیلسه دنیا برله عقبی دولتین جسم ایله جاننی حرام سقرنینگ اوتیگا

و اول صابر الآفات^{۲۲} و البلاء رضی الموة و القضا شهید الکربلا سالک القوه البقاء تارک الحب الفنا
 شاغل الذکر و الثناء صاحب الافسر و اللواء مجمع (60) الحسن و الضیاء امیر المؤمنین و امام المسلمین
 ضحی الدین سراج الامین سید السادات بلدة الزکات کشور الحسنات دجلة الخیرات یعنی حضرت امام حسین

^{۱۸} آتی

^{۱۹} آدم

^{۲۰} اله

^{۲۱} الخاص

^{۲۲} الآفات

دورلار رضی الله عنه و اول شریعت پیشه سینی شیرزادی حقیقت مسئله سی^{۲۳} نینگ استادی سیادت سلسله سی نینگ بنیادی شهدا گروهی نینگ سروری جهدا جمعی نینگ رهبری انوار مجموعی نینگ مظهری نینگ فرزند دلبند سعادت مندلااری حضرت امیر المومنین امام زین العابدین دورلار رضی الله عنه و امام زین العابدین نینگ فرزندلااری حضرت امام محمد باقر دورلار و امام محمد باقر نینگ فرزندلااری حضرت امام جعفر صادق دورلار و امام جعفر صادق نینگ فرزندلاار حضرت امام موسی کاظم دورلار و امام موسی کاظم نینگ فرزندلااری حضرت امام علی موسی رضا دورلار و امام علی موسی رضانینگ فرزندلااری حضرت سید شاه طالب دورلار (70) و سید شاه طالب نینگ فرزندلااری حضرت سید عبد الله دورلار و سید عبد الله نینگ فرزندلااری حضرت خواجه سید افضل دورلار و خواجه سید افضل نینگ فرزندلااری خواجه سید عبد الله دورلار و خواجه سید عبد الله نینگ فرزندلااری^{۲۴} خواجه سید احمد دورلار و خواجه سید احمد نینگ فرزندلااری خواجه سید محمد دورلار و خواجه سید محمد نینگ فرزندلااری خواجه سید حسین دورلار و خواجه سید حسین نینگ فرزندلااری خواجه سید شاه حسین دورلار و خواجه سید حسین نینگ فرزندلااری خواجه سید جلال الدین دورلار و خواجه سید جلال الدین نینگ فرزندلااری خواجه سید کمال الدین دورلار و خواجه سید کمال الدین نینگ فرزندلااری خواجه سید برهان الدین قیلیچ دورلار و خواجه سید برهان الدین قیلیچ نینگ فرزندلااری خواجه سید امیر دیوانه دورلار و خواجه سید امیر دیوانه نینگ (80) فرزندلااری سید محمد خواجه دورلار و سید محمد خواجه نینگ فرزندلااری خواجه سید برهان الدین دورلار و خواجه سید برهان الدین نینگ فرزندلااری خواجه سید جمال الدین دورلار^{۲۵} و خواجه سید جمال الدین نینگ فرزندلااری خواجه سید جلال الدین دورلار

و خواجه سید جلال الدین نینگ فرزند ارجمند دلبند سعادت مندلااری حضرت جناب مستطاب معلی القاب ولایت قطب الاقطاب حضرت مخدوم یعنی خواجه سید احمد سرهند کاسانی دورلار رحمة الله علیه فی شأنه.

بیت

حضرت مخدوم اعظم ایردیلاار قطب جهان	غوٹ ایدی اوز عصرینه ابدال اوتاد زمان
مصطفی و مرتضی اولاددور اول حق شناس	معرفت برله شریعت باییدا گوهر فشان
گر طریقت یولیدین سورسنگ قلندر روح بو دور	زورق بحر حقیقت دور قبول ایتگیل بجان

^{۲۳} سینی

^{۲۴} فرزندلار

^{۲۵} دورلا

یوق ایدی اولدور که هرگز ولی لارغه مجال تا ولایت (90) دعوی قیلسون علی ای المکان
 محنت و آفت ارا قالغان محل یاد ایلاسه خواجه سید احمدیم دیسه هر کیم کورماس زیان
 اورنی دوزخ دور اوشنداق یول اداشکان عاصی نینگ کیم ایننگ قطبیتیه ایلاغای شک و گمان
 ای مسلمانلار ادا بولماس اینگدیک شاه نینگ ایلاسم وصفین قیامت بولگوچه بر بر بیان

و حضرت مخدوم اعظم پادشاهم دین اون اوچ اوغول قالدی. اول حضرت خواجه محمد امین کیم لقبی
 حضرت خواجه کلان دور. ایکنچی خواجه محمد دوست، اوچونچی خواجه بهاو الدین، تورونچی خواجه عبد
 خالق، بیسونچی خواجه اسحاق، التونچی خواجه صدیق، ییتینچی خواجه حسن، سکونچی خواجه عبد الحی،
 توقوزونچی خواجه محمد علی، اونونچی خواجه شیخ، اون برینچی خواجه محمد، اون ایکنچی خواجه سلطان
 ابراهیم، اون اوچونچی خواجه عبد الله

و حضرت خواجه کلان نینگ فرزندلاری خواجه محمد یوسف و خواجه میر هاشم دورلار و خواجه محمد
 یوسف نینگ فرزندلاری و ارجمندلاری حضرت خواجه (100) سید هدایت الله و خواجه کرامت الله و
 خواجه قناعت الله دورلار رحمة دورلار. لقب ذلحسب لاری حضرت خواجه آفاق^{۲۶} رحمة الله علیه و خواجه
 آفاق^{۲۷} خواجه

اوچ برادرلار. برلاری خواجه کرامت الله دورلار. الارنی فرزند ارجمندلاری محمد عادل پادشاه دورلار.
 حضرت سید افاقخواجه^{۲۸} داماد بولادورلار. بولارنی فرزند ارجمندلاری ایشان سید عبد الله خواجه قطب
 الاقطاب سید الاولیا دورلار^{۲۹}. الارنی فرزند ارجمندلاری سید رحمت الله خواجه. الارنی فرزند ارجمندلاری
 سید محمد امین خواجه. الارنی فرزند ارجمند ارشدلاری محمد سید خان خواجه دورلار. بو شجره شریف
 محمد سید خان خواجه نی شجره لاری دور. هر کیم کورسه خلاف و انحراف قیلمسون لار. نامه تمام و
 السلام.

السلام علی من اتبع الهدی و التزم متابعه (110) المصطفی صلی الله علیه و علی آله^{۳۰} و سلم برحمتک یا

^{۲۶} آفاق

^{۲۷} آفاق

^{۲۸} افاقخواجه غه

^{۲۹} دولار

^{۳۰} اله

ارحم الراحمين.

بعده حضرت سيد خان خواجه دين تورت اوغول قالدى. برى لارى حضرت محى الدين خان توره و برى لارى حضرت ولى خان توره و برى لارى جلال خان توره دورلار. بولار و علما و فضلا و كته كيچيك لار و مرید مخلص لار جمع بولوب حضرت محمد سيد خان خواجه وصيت لاريغه عمل قىليب بو شجره شريف نى فرزند نور چشم لارى و دلبند ارجمندلارى و اولاد پيغمبرزاده لارى حضرت سيد آفاق خواجه غه اتفاق بولوب بردى لار. بو شجره شريف حضرت محمد سيد خان خواجه دين حضرت سيد آفاق خواجه غه ميراث بولوب قالدى. هر كيم شك و يا مخالفت چيليك قىلسه گنه كار عظيم بولور زيرا كه اجماع امت كنص شارع ديب دورلار.

و خواجه حسن خواجه كه لقب لارى حضرت صاحب قران پادشاه دورلار. اته لارى خواجه آفاق^{۳۱} خواجه اولگاندين كين غوث غياث قطب (120) الياس ابدال اوتاد نقبا و نجبا و چهل تن و رجال الغيب لار نينگ قوليدين وحدانيت شراييدين نوش ايتيب مست مستغرق بولوب اته لاريدين قالغان قطبيت خرقة سينينگ الار نينگ اجازتى برلان كييب قطبيت مسنديغه آرام^{۳۲} تافتى لار. اته لرى قالغان سالك و صوفى و مرید و مخلص و فقرا و علما و فضلاء و شيخا همه لارى كييب انابت ايتيب دست بيعت برديلار. اما حضرت صاحب قران از مدتدين سونگ كفار بيله اورش باشلاديلار. كفار نينگ وجودى نينگ قوروته بريب تولا قرديلار تا كه قالماق لار ناموس ايتيب سانسيز و عددسيز غلو قىليب كييب يار كند و كاشغر ولايت نى قصاب قمساب تنگ قيله باشلادى لار. قرالغان سارى كوپ راق بولوب ازامى مانس ايديلار.

آخر^{۳۳} الامر صاحب قران صلح نينگ پيشه قىليب ايلچى چقارديلار كه كفار اونمادى. بارغاي سارى مسلمانلار نينگ احوالى زبون راق بولدى. نچوك كيم آفاق خواجه^{۳۴} اولغان دين كين نيچند ييل غچه يامغور ياغمگان ايدى. زراعت بولماى اول وقتلارغه كوپ آچارچىلىق ايديكه هيچ كيمگه مدار و درمان بوق ايردى. القصه. علاج تافالمى حضرت صاحب قران^{۳۵} اوز يورتلاريدين قوشونلار برلان سياحت^{۳۶} اختيار ايتيب

^{۳۱} آفاق

^{۳۲} آرام

^{۳۳} آخر

^{۳۴} آفاق خواجه

^{۳۵} قيران

چیقیتیلار. قالغان خواجهملار ایلچی غه ایتورب چیقاردیلار که (130) هر نه سیزغه اوروش و غلبه ایکان. صاحب قران^{۳۷} ایردیلار که چقیب کیتی لار. دغی نه اوچون بزنی اطرافمیزی توتوب تاراج^{۳۸} ایتارسیزلار. اگر یراشانگلار^{۳۹} بزلاز هم یراشورمیز و سیزلارنی اوستونگیزغه اصلا بارماس میز. یوق بولسه ایتکانینگیزدیک اتینگ لار. بول اره غه ایلچی قیناب یراشتوردیلار.

ایمدی اشیتماک کرک کیم حضرت صاحب قران کیم وطن دین اجر ب چیقیتیلار. هر یتی شهر و کشور و پادشاه لارغه باریب مدد الیب کیلیب کافرینگ اونگ و سولیدین اوروشوب ینه قینیت باریب بولک شهرلاردین قوشون الیب دغی کیلیب اوروشار ایردیلار.

اما هیچ یردین اویلانماس ایردیلار تا که گذاری هندوستان شهزیده توشتی و اولعهدگا ابو الغازی^{۴۰} خان انده پادشاه ایردیلار. حضرت [صاحب] قرانغه^{۴۱} استقبال ایلاب اعزاز و اکرام لار بیلان قوندوروب نیچند کوندین کین اوز قومیدین میمونه دیگان قیزی اول شاه صاحب قرانغه^{۴۲} نذر^{۴۳} قیلدیلار (140) و اولقیز کوپ صالحه و مستوره ایردی. شونگدین حضرت صاحب قران نکاحلاریغه کیزروب همبستر بولدیلار. اینگدین نیچند وقتدین سونگ خدای تعالی اوغول فرزند بریب تور^{۴۴} که اینگ آتی نینگ خواجه عبد الله قویوب دورلار. اما اولفرزند هم نیچند یاشقه کیریب کیچیکلیک وقتیده وفات تاپقاندور که اینگدین نسل قالما بدور

و صاحب قران فنچه وقت بونده توروب دغی خراسان یقه سفر قیلدیلار و هر شهزیده بو حضرت نینگ خوارقلاز و کرامات لاری کوپ ظاهر بولور ایردی کیم شاه و کذا علما و فضلالاری همه مرید دورلار^{۴۵} و هر مکانغه بارسه لار شهر اهلی جذب و جنونغه کیریب حضرت نینگ اطراف لاردین هیچ قیان بارماس ایردیلار. القصه. کابل مملکتیغه داخل بولدیلار و بو شهرینگ چونگ و کیچیک لاری و بزرگ لاری بلکه تمام

^{۳۶} صیاحت

^{۳۷} قیران

^{۳۸} تراج

^{۳۹} یراشاگار

^{۴۰} ابولغازی

^{۴۱} قیرانغه

^{۴۲} قیرانغه

^{۴۳} نظر

^{۴۴} یور

^{۴۵} مریدورلار

اهل و مردمی اخلاص ایتیب و اکثر اغلب لاری هم انابت ایتیشتیلار و حضرت صاحب قران تولاراق مدة بو برده (150) قالدیلار.

فصل. ایمدی ایشیتماک کرک کیم اولوقتیکه حضرت آته یورتیدین اجر ب چقیب هر قیو شهر و شه لاردین مدة آیب باریب قالماقلار بلان اوروشیب چقیب سان سیزنینگ وجودینینگ قوروتب و اولدورب بویان کیلگان محلده قالماق اولوغ لاری چونگتاجی همه لاری جمع بولوب مصلحت ایدیلار که قیداق مکر بیلان صاحب قران نینگ نابود قیلساق ایننگدین قوتولساک. آخر^{۴۶} الامر شبو مکر نینگ تاپتیلار که هر اسلام شهریکه صاحب قران بازاردورلار. ایننگ حاکمغه کوپ مال دنیانی بریب تا که دنیا فریفته بولوب برایش قیلسه و الاموندین اوزگه علاج یوق دیدیلار. بو سوز همه لاریگه معقول.

القصة. مال و جواهرلار جمع ایلاب نیچه ایلچی راستلاب نامه لار یازیب عهدلار قیلیب هر قیسی شهرلارغه ایباردییلار. اما هیچ آدم بو امر نا شایسته غه اونمادی که دنیا اوچون (160) آخرتیدین اوتماس میز دیب. مگر قراتال دیگان شهرغه محمد رضا بیک دیگان بر بیک بار ایردی. اوزی کوپ ظالم و نا انصاف. اوشل شبو ایلچی لار نینگ کورگاندین کین دنیاغه مغرور بولوب آخرتنی فراموش قیلیب بو مال ایب عهد ایتی که من خدمتنی بجا قیلای. ینه کوپ مال برینگلار دیب ایدی. ایلچی لار هم قبول قیلیب آنت ایچتیلار. نیچند کوندین کین اشتیلار که حضرت صاحبقران هندوستاندین^{۴۷} کابلغه کیلدیلار دمیش و محمد رضا بیک خدا بزغه بردی دیب نامه یازدوردی.

نامه نی مضمونی بو ایردیکه اول نامه خدانی اتیغه که ایکی عالمده ایننگدین باشقه خدا موجود ایماس. ایکنچی محمد علیه سلام نینگ اسملاریغا که کونین و ملوین نینگ خلقی نینگ باعشی و سببی دورلار. اوچونچی منی الیدمدین حضرت صاحبقران پادشاهیمیز خدمتلازغه انداق معروض دور کیم الحمد لله امان (170) آمین^{۴۸} دولت و سعادتغه مقرون توروب حضرتیم نینگ باسغان ایزلارینی تفراغنی کوزومغا سورمه قیلماقدین باشقا مد نظر آرزوم^{۴۹} یوقدور^{۵۰}. ازین سونگ جهان پناها جنابلاریغه مسدود و مخفی قالماغای کیم فقیر حقیر کمینه قل لاری مونچه یاشقه کیریب دورمن. هر نه یمان و یخشی قیلیب اولگانچ ایمدی خدای تعالی دین شونداق امید و آرزو^{۵۱} قیلادورمنکه فالغان عمر و دولتمنی یاشلاریغه تصدقات ایتیب غذات

^{۴۶} آخر

^{۴۷} هندستاندین

^{۴۸} آمین

^{۴۹} آرزوم

^{۵۰} یوقدو

^{۵۱} آرزو

بولیغه صرف ایتسام بشرط قدوم مبارک لارینی منینگ احزان منزلغه یتکورسه لاری یخشی. کذا و کذا باقی السلام علیکم.

القصه. نامه تمام بولغاندین کین بر ایکی کف دان آدمی قولیغه بریب کابل یقه روانه قیلدیلار. بولار نیچند کونلار یول یوریب کابل شهریغه داخل بولوب حضرت صاحب قران نینگ خدمتلا ریغه باریب نامه توتی لار و صاحبقرانیم نامه نیکه متالعہ قیلیب یارانلاری برلان (180) کنگاشتیلار. همه راضی بولدیلار. مگر صفة سالار آخوند رضا بولمدیلار.

اما حضرت صاحبقرانیم دیدیلار که ای یارانلار بلینگ آگاه^{۵۲} بولونگلار که آتہ پادشاهیم منینگ ایتقان دورلار که سنینگ بوسندنگ(؟) قراتالده دور. آتی محمد رضا بیک دور. هر قنداقبولسه اولومدین قاجیب قوتولوب بولمس. تقدیریتدین تاقمغا(؟) قضاغه رضا بولماق بهراق دور دیب فی الحال قراتالیغه روانه بولدیلار. قنچه مدة یول یوروب قراتالده یتی لار. اما بول اورته غه کشف و کرامات لاری کویدین کوپ ظاهر بولدی. محمد رضا بیک حضرتیم نینگ استقبال لاریغه چقیب اعزاز و اکراملار برلان شهریغه کیرگیزدی. اوزی قل دیک بولوب خدمتگا توردی و حضرتیم پادشاهلیق ایت دیلار که ای محمد رضا بیک ایمدی نچو کیلدوک. غذاتغه چقماس سیزمو و محمد رضا بیک دیدی که ای پادشاهیم ابدان مرحمت قیلدیلار. (190) لیکن بر ای صبر قیلسون لار دیدی. حضرت تبسم ایلاب معقول دور دیدیلار.

اما ایمدی اشیتماک لازم که حضرتیم نینگ بو شهرغه کیلشلاریدین نیچند ییل برون رابعه دیگان بر قز که کیان پادشاه لاری نینگ اولادی و نادر علیشاه دیگان بر عابد و زاهد کیشی قیزی ایردی که فلان تاریخ ده فلان توسلوک آدم^{۵۳} بول شهرغه کیلادور. سین انینگ جفتی دورسین دیب. شونگدین اوتوز یتی غه کریب اولتورور. اوزینی دیوانه قیلیب باقیب توروب و حضرتیم کیلگاندین کین ینه بشارت بولدیکه اوشل کشی که سنینگ جفتونگ شبو کیلگان کیشی دورلار دیب.

القصه. ایرته بهرام دیگان^{۵۴} اغالارینی چقرب الدیلار و بول بشارت نینگ ایتییب دیدیلار که سیز حضرت صاحبقران نینگ خدمتلا ریغه باریب منینگ دعام نینگ ایتینگ و من بر همشیرم بار. تلی گونگ قولاغی کر کوزی کور قولی شل. اگر خواهلاسنگیز خدمتگا کیلتورای دینگ و هر نمہ دیسه لار^{۵۵} تخی کیلیب منگا دینگیز. بهرام شاه دیدیلار کیم سن دیوانه بولسنگ شبو (200) سوزنی دیرمو دینگ. صاحبقرانیم نی پادشاه زاده سیدزاده لار و اولوغ زاده لارغه علم و جمال و ملاحظده جهانده انداغ نمریه لار آز ایرمیش.

^{۵۲} آگاه

^{۵۳} آدم

^{۵۴} دیگا

^{۵۵} دیسه لا

الارنینگ نذر قیلغانده المه غان ایمیش لار. سنینگ ماخته مای کور کر گونگ شل دیغانده الارموکانلار دیب کاهیدیلار. رابعه دیدیکه ای اغام هر نه من دیسام شونینگ قیلینگ، خواه بولسه و خواه بولمسه. اغالاری ایسه خیر دیب چقیب حضرت صاحبقران نینگ قاشلاریغه باریب سلام قیلیب سنگنی^(۴) لارینی دعا و سلام و همه سوزلارینی بر بر عرض قیلدیلار. حضرتیم تبسم ایلاب دیدیلار که اگر شونداغ کر و کور و گونگ و شل بولسه بیز هم قبول قیلدوق دیب جواب بردیلار. بهرام شاه شادان و خروشان همشیره لارینی الدیده کیلیب قبول قیلدیلار دیب ایتی لار و تخی سورا دیلار که ای همشیرم سنی نه اوچون یمان لاغانده قبول قیلدیلار. رابعه دیدیلار که ای اغام یمانلاماق ایمس. کور دیب نا محرمنی کورمگان نینگ دیدور. کر (210) دیب نا محرمنی آوازینی^{۵۶} ایشتمگان نینگ ایتور. گونگ دیب یالغان دیمغان و نا محرم بیلان سوزلاشمغان نینگ دیدور. قولی راست شولدور.

القصة. رابعه نینگ اغالاری قوم و قرینداش لاری الیب ایلتب حضرت صاحبقران غه نذر قیلدیلار و حضرت صاحبقران جلال الدین آخوند^{۵۷} نینگ چقرتوروب الدیلار. خطبه اوفونگ دیب امر ایتی و صاحبقرانیم آله جلال الدین آخوند کاسه ده سو قیوب رابعه نینگ حضرت صاحبقرانیم غه نکاح ایتی لار و صاحبقرانیم بول قیز برلان خلوة غه بولدیلار و بول ائاده ایکی آی اوتی. هر دو شنبه اخشم رابعه برلان فراغتکه ایردیلار که ناگاه بشارت تافیب یغلاب او یغاندیلار و رابعه هم او یغانیب سوردیکه ایشهریاریم نه اوچون یغلارسیز. حضرتیم دیدیلار که ای نگاریم آگاه^{۵۸} بولغیل که ایمدی جدالیق وقتی یتی. آته پادشاهیم^{۵۹} کیلیب بشارت بردی لار که ایمدی منینگ قاشیمغه کیلورسن دیب. اکون منغو جهاندین سفر قیلورمن. اما سنگه (220) منینگ سوزوم بولدور که منی فوتیمدین یتی آی دین کین حق تعالی نی امر برلان بر اوغول فرزند توغارسین و اول فرزند الحال سنی قارنینگده ایکی آی لیق تورور و منینگ نسبت و سلسله م ایننگده قالیب قیامتغه چه اوزولمسه دور. انشا الله تعالی. اما ایننگ آتی نی خواجه قاسم قویونگلار و انی دشمنلاردین پنهان توتوف ابدان اسرانگلار و بو شهرده هم تورمای خطلان زمین غه بارینگلار. اخیر وقتده انی فرزند دوریاتلاریدین بری چقیب اصلی وطنه میز نی کفارنی قولیدین اجرتیب الیب منی اتیم نی مشهور و اوچکان چراغیمنی روشن قیلغوچی دور انشاء الله تعالی دیدیلار و رابعه بولسوزلاردین زار زار چون ابر نو بهار یغلاب حضرتیمنی مبارک اتیک لارنی الیب یوز و کوزلاریغه سورتار ایردیلار.

^{۵۶} آوازینی

^{۵۷} آخوند

^{۵۸} آگاه

^{۵۹} پادشاه

القصه. طهارت قلیب مسجده باردیلار. نماز بام داد^{۶۰} اوقودیلار. بشارت نینگ هم خاص یارانلاریغه دیرلار^{۶۱}. الار هم کوپ یغلادیلار. اوشل کون نماز پیشین اوقوغاندین کین وقت یتى. رضا بیک (230) ظالم و منافق موریدینی^{۶۲} تافیب طعام لاریغه زهر قوشوب دورور. اما بو زهرنی صاحبقران بیرلان یتى خاص آخوندلاری دیدیلار. زهر کار قیلغاندین سونگ آگاه^{۶۳} بولدیلار. فی الحال حضرتیم سوردیلار کیم آخوندلاریم بزغه غو زهر بریب دورلار. دواى نه تورور. بو آخوندلار قوفوب دیدیلار کیم تقصیر پادشاهم زهرنی دواسینی اوزلاری بیلماسه لار بزلاز قنداق بیلورمیز. صاحبقرانیم سکوت^{۶۴} بولوب ینه سوردیلار^{۶۵}. بولار تخی شولجوابینی دیدیلار. اوچمراتبه غچه حضرتیم سوردیلار بو کفدین بولک سوز دیمادیلار. آخر^{۶۶} الامر حضرتیم آه تارتیب دیدیلار که ای نادان آخوندلار من بر ایکی اوچ سوز داریم که نمه دوا دور دیب. اگر سیزلار خواه جامعو(؟) خواه زردک خواه سوهر نیرسه نی که دوا ایرسنگلار ایدی دا بولار ایدی. ایمدی منگا دوا یوق. آتیم نی سوزلاری خطا یوق. منغو ایمدی شهید بولارمن. اما سیزلار اولماس سیز. منی قیکیمنی(؟) ایلب سوغه سالیب ایرتیب سقیب ایچینگلار. زهر رو بولور انشا الله تعالی.

(240) الار در حال انداق قیلدیلار. زهرنی قی قلیب رو قیلدیلار و حضرتیم تخی دیدیلار که ای آخوندلاریم من اولغاندین کین بو منافقلار منی جنازه قلیب کوتارلار. اما زینهار منی بو یرده قویمای نقب^{۶۷} قازیب التیب اته پادشاهیمنی ایغلاریغه دفن ایتینگلار دیب کلمه اوقوب الله دیب جان حقغه تسلیم قیلدیلار. قالوا انا لله و انا الیه راجعون.

القصه. یارانلار همه آه دیب نچند کونلار هوشیدین کتیب گریه و ناله قیلدیلار. محمد رضا هم کیلیب یالغانلار دین یغلاب ماتم توتوب جنازه لارین اوتاب بر تیغه غه دفن قیلدیلار و هم خیراتلارین اوتکازیب ملازمملاری^{۶۸} هر قیو تارقاب کیتیلار و اول وصیتمند یتى آخوند هم کیتیب یولدین قایتیب کیلیب نقب قازیب آلیب ثناجغه سولاب ایلتیب روضه مبارکغه دفن قیلدیلار و الله اعلم لحقیقه.

۶۰ دا

۶۱ دیلار

۶۲ موریدینی

۶۳ آگاه

۶۴ سوکوت

۶۵ سوردیلار

۶۶ اخر

۶۷ نقیب

۶۸ ملازمملاری

امدی ایشیتماک کرک کیم صاحبقرانیم بو دنیادین انتقال قیلغانلاریدین سونگ رابعه بیچاره قنچه (250) نوحه و زاری قیلدی. سود تاپمادی. آخر اغاسی نی اوی غه دغی باروب ساکن بولدی. اما آغازی^{۶۹} بولکافر رضا بیگی غه اولغ سرکرده ایردی. اوچ تورت کوندین کین رضا بیک بهرام شاهغه دیدی^{۷۰} که اول نیچند دفعه کیشی یوردیم که همشیره نگی منگه برگیل دیب. سن دیمادینگمو، منی همشیره ام دیوانه ایر قیللمسه دور. نچون خواجه غه بردینگدیب اعجیق لدی. بهرام شاه دیدی، دیوانه لیک دین بردوک. شاید سغای سوندیب او کیشی باریده درست^{۷۱} بولوب ایردی. ایمدی دغی دیوانه بولوبدور دیدیلار^{۷۲}. رضا بیک بد بخت دیدی^{۷۳}، خیر سیز همشیره نگی دین فرزند بولسه اول فرزند نی رابعه نی و سن دیک یالغان چی نی اولتورمسم. رضا بیک دیگان آدم^{۷۴} بولماسام دیدی و بهرامنی سر کرده لیک دین بی کار قیلدی و اما خدای تعالی نی قدرت بیلان یتنی آی دین کین تخی دوشنبه کچه سی وقت سحر دا بی بی رابعه بر اوغول توغدیکه کوز کوروب و قولاق (260) ایشیتماگان ایردی. مثل آی و کوندیک ایردی. منور و مزین ایردی و بهرام شاه اغاچه لاری بیلان و یقین توغقان لار همه لاری کیلیب شادمان بولدیلار. لیکن رضا بیک ظالم نی شریدین کوپ خوف ایتیب قیاداق قیلونسه بولور ایکاندیب. بو کودک نی تولدنی ایشیتسه اولتورور دیب کورساتمادیلار. اگر چونگ بولسه آتاسینی خونینی مندین آلور دیب بهرام شاه و رابعه و بز لارنی تخی اولتورور و اگر انگا دیمای ساقلاساق بر وقت اولظالم خبر تاپسه تخی بز همه میز نینگ هم اولتورور. بو بی گناه طفلی پیغمبر زاده نی حالی اوزمیز اولتورور پنهان ایتساک قیامت کونی باباسینی رسول خدا قاشیده قرایوزلوک قوفساک کراک دیب کودک نی یوزیگه قراب یغلادیلار. ارادین قربان شاه دیغان نادر علیشاه نینگ اوکاسی اقسقال مؤمن کیشی ایردی. اول دیدیکه اگر پیغمبر زاده نینگ یولیده بر باش تور منگباش برسک ارزیدور. (270) آخرت^{۷۵} بیزگه در کار دور. البته پنهان قیلالی دیدیلار. اگر اول ظالم خبر تاپیب بیزنی اولتورسه شهید غو بولارمیز. شاید بیز خدا ساقلاسه عجب ایرمس. بو نینگ سوزیدین همه لارنی همت لاری جوش قیلدی. اولومغه راضی بولدیلار.

اما بهرامشاه نی هم بر خاتونی هم حامله ایردی. ایرته سی سه شنبه کونی سحر وقتده بر اوغول توغدی.

^{۶۹} آغازی

^{۷۰} دیدید

^{۷۱} دورست

^{۷۲} دیدیلار

^{۷۳} دیدیدی

^{۷۴} آدم

^{۷۵} آخرت

یرگه اولوک توشتی. انی دفن قیلیب اورنیغه خوشوقت بولوب شهزاده ترتیب قیلدیلار. خدا بی خوف بی ضرر مرحمت ایلادی.

ایمدی ایش آسان بولدی دیدیلار. ایرته سی شهرت قیلدی که بهرام شاه نی خاتونی اوغول توغوبدور دیب آوازه سالدیلار. اوچ تورت کون اوتکاندین سونگ حضرت صاحبقران دیگان وصیت لاریدیک خواجه محمد قاسم آت قویدیلار و انی یخشی اسرار ایردیلار تا که بو ارغه آلتی آی اوتی. اما کین کین شهرت بولوب بو سوز مشهور بولغاندیک بولدی. انداق ایمیش مونداق (280) و بونی شهرتی بهرام شاه نی قولایغه یتي. ایش بولمدی دیب بر کچه اون ایکی اولوک قوم قربنداش لاری برلان کوچوب صاحبقرانیم دیگان خطلان زمین غه روان بولدیلار. نیچند کون یول یوروب.

القصه. خطلان یتي لار. سیاد دیغان موضع بی غه باریب یر سو الیب ساکن بولدیلار. اما خواجه قاسم خواجهمنی تمام صورتلاری بعینه صاحبقران اته لاریغه اوخشار ایردیلار. هر کیم انی کورسه حضرتیم نی کورگاندیک بولور ایردی. بو کیشینی خاصیت و حرکتلاری هم بارغان ساری ظاهر بولور ایردی. حضرت صاحب قران پادشاهیم نی واقعه حال و شهادت لاری و خواجه قاسم پادشاهیم ولادتلاری نینگ شیخ محمد صدیق بلخی رحمة الله علیه مدحینی نظم قیلیب دورلار و اول مدحت بول ایمیش دور.

تمت تمت تمت

خواجه آفاق ^{۷۶} خواجه روحیغه یوز مینگ رحمت	قطبیت خرقه سینی قویدی کتی جنت
دیدیلار کیمغه مناسب بولماس عصمت	قطب اوتادینه غوث غیثا چلتن
کیلتوروب سوردی مبارک همه سی اولساعت	کوردیلار ^{۷۷} خواجه حسن جمله قامتغه روا
قل بولوب انگا خلائق قیلدی بیعت	اولتوروب اته سینی اورنیغه اول قطب جدید

بردی تعلیم ثنا و رواحلیغه ^{۷۸} ذکر و طاعت	باشلادی حق یولیغه جمله نی اول حقه یقین
قالمدی سالکغه ذره چه شک و ریبت	جمله مؤمن الجنان دجله سیدین جرعه حال
آفت شور بلا غم درد و مسحنت	لک کافر بیله ظالم باشیغه توشتی
تا غزات اوستغه بیل باغلادی قیلدی همت	جمله قلماق خطالار قزلدی تون کون

^{۷۶} آفاق

^{۷۷} کوردیلا

^{۷۸} رواهلیغه

چقیب اوز یورتیدین اولخواجه صاحب نصرت
کیلیبان اونگ سولدین اورشادی بو صفت
اوتی بول اورته غه نچه وقت ساعت
بردی اولکشور و اولشهرغه زیب زینت

قل کبی آلدینه توردی قیلدی خدمت
شهنه میمونه نی اول خسرو زیبا سیرت
بولدی فرزند غه فرزند مونیگدیک مشیت
منعم تقد^{۷۹} بقا ساقی جام وحدت

اتیان(؟) قیلدی سفر ایمدی کورونگ بولصنعت
شهرننگ بیگی رضا بیک صعیبان(؟) اولفرصت
شهرغه کرگوروب ایتی نچه عز و حرمت
لیک سیزدین ایکی اوچ ای تیلای من مهلت

یاشی اوتوز ایتی غه یتکان دنیا صورت
عقد ایتیپ خواجه تقی انگا بولوب دور^{۸۱} خلوة
قویوبان رابعه غه دیدی بو سوز توصامت(؟)
یتی صهبای اجل دیک ولی کوپ حسرت

حق برور سینگا اوغول برماکیگا شهرت
قالغودور انگا منینگ سلسله برله نسبت
بولدی مشغول عبادت شه بالا همت
تخی سوز(؟) اراغه بولدی تقی اولحالت

چونکه کفار ایلی کوپ قیلدی غلو باشلاریغه
هر صو شهر مسلمان ایدی آلوردی مدد
بویله هر کشور هر یورته باروردی اولشاه
تا مبارک قدمی هند دیاریغه یتب

هند شهرینی شهر شاه ابولغازی خان
کیلتوروب ایلادیلار عقد اوقوبان خطبه
انگا همبتسر اولوب خواجه نچه ای دین سونگ
ینه اوقات توروب یوردی خراسان ساریغه

اول ولایت نی قیلیب فیضی فرجدین ممنون
بول یوروب قراتالده نچه کوندین سونگ
بولدی حضرتکا ملاقی اوزی تکلیف ایتبان
دیدى من که غزات یولیغه بیل باغلاعلوق^{۸۰}

گرچه رابعه اتلیق اوزی مستوره قیزی
شاه بهرام اغاسی کتوروب نذر ایتی
ایکی ای بو اراغه اوتی دوشنبه تونی
بو کچه منگا بشارت کیلبان بردی اتم

یتی آی اوتسه کرک بیل منی موتمدین سونگ
قوی ایننگ آتی قاسم دل جانینگ بيله باق
اسان قوییتی یریدین باریبان الدی وضو
ایرته سی زهر قوشوت آشیغه بردوردی رضا

^{۷۹} نقصد

^{۸۰} [کذا]

^{۸۱} در

III. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』日本語訳

本章では、前章で作成した『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』のテキストをもとに全文の日本語訳を試みる。アラビア文字テキストと同様に、途中の挿入部分の前後には****を入れた。() とあるのは筆者が訳出の際に補った言葉や説明、(?) は解読できなかった箇所である。作品の10行ごとに対応する箇所に(10)のように行番号を挿入したが、原文と完全に一致しているわけではない。

慈悲深く慈愛あまねき神の御名において

天と地を、群星と太陽と月とともに、そして天国、楽園、宮殿、トゥーパーの木、カウサル川をも創造した神に感謝あれ。多神教徒たち、不信仰者たちには、火と地獄の刑罰あれ。地には、山々、海、香り高き草々、木々があり、山々には、植物、草、土、石があり、海には、珊瑚、真珠、珠玉があり、香り高き草々には、芳香、ザイナブの木、リーブの木、(?)があり、木々には、根、枝、葉、果実がある。我々は証言する。「偉大なる永遠の唯一神以外に神はない」と。また我々は証言する。「ムハンマドは神の下僕であり、神の使徒であり、最後の審判の日の調停人である」と。神、神の天使たち、預言者たち、神の使徒の祝福が、我々のサイド、ムハンマドと、その家族、その教友たちにありますように。アーミン。よろず世の主。

神の賞讃と最後の預言者の讃美ののち、高貴なる帝王たち、聖法を行う支配者たち、正義を行うスルターンたち、敬虔なるハーカーンたち、道徳家たる統治者たちの、月を照らす輝く心に、(10)そして明敏なるアミールたち、指導の論拠たるウラマーたち、第一級の学者たち、プラトンのごとき賢者たち、詳細を研究する賢人たちの、海を満たし安寧を

支える芳しき心に、以下のことが明らかとなれ。聖法の芝生の小夜鳴鳥たち、学識の園の鸚鵡たち、明敏の果樹園の雉鳩たち、意味の火空の隼たち、雄弁の標たち、能弁な歴史家たち、秘密の源泉たる賢人たちは、偉大なる慈悲によって、時の人々を称え、以下のように命じた。すなわち、誰であれサイドの海の宝石、神託の宝庫のルビー、神命の庭園の糸杉であれば、その尊い吉兆なる人物は、その先祖の祝福された名を、系譜の園から、人々の輪の広場から、書物の広場から、時代の民とともに明らかにし、説明する必要がある。神の下僕たる信徒たちが、以下の尊い諸ハディースを実行し、尊敬し、(20)敬意を表し、現世と来世の幸を手に入れることができるように。

すなわち、「預言者一神が彼に祝福と安らぎを授けますように一がおっしゃった。『私の子孫を尊敬しなさい。敬虔な者たちを神のために。放蕩者たちを私のために』と。」(アラビア語)すなわち、「預言者一彼に平安あれ一の吉兆なる感謝を捧げる宮殿の口から、親切に命じられている。『私の子孫を尊敬しなさい。敬虔な者たちを神の道で。放蕩者たちを私の道で』と。」(チャガタイ語訳)また、親切に、「私の一族を尊敬する者は、私を尊敬することになる。私を尊敬する者は、神を尊敬することになる」(アラビア語)とおっしゃった。すなわち、「私の子孫を尊敬せよ。それは私を尊敬したことになる。そして私を尊敬する者は皆、神を尊敬したことになる。」(チャガタイ語訳)別のハディースは以下のごとくである。「私の一族を軽蔑する者は、私を軽蔑することになる。私を軽蔑する者は、神を軽蔑することになる。神を軽蔑する者は、信仰と現世において、呪われることになる。」(アラビア語)すなわち、「誰であれ、私の子孫を軽蔑する、つまり見下すならば、私を見下したことになる。私を見下した者は誰でも神を見下したことになる。神を見下した者は誰でも、現世と来世で神の(30)呪い

を受けることになる。最後の審判の日に、異教徒たちの列から立ち上がり、地獄の苦しみに逃れることは出来ない。—そのようなことは断じてないように—(チャガタイ語訳)

その後、宗教の国のイマームたちに、アーミンの国のハーキムたちにとって明らかとなれ。その宇宙の長、万物の精華、神に愛されし者、罪の病を直す医者、罪人たちの支え、最後の審判の日の調停者、神の秘密を知る者、預言者たちの王、人々にとっての真実の宝石、預言者たちの長、聖者たちの長、民と宗教の使徒、その方の称賛をアズィーズは以下のように述べている。

詩

その顔は地表において天空のごときである
王座に座り王座によりかかる支配者
八つの天国が彼の宮殿の花に満ちた庭園
天国のトゥーパーの木が彼の頭上の天幕
彼の宮殿では天女、天男が仕える
カウサル池の場所がその間にあると考えよ
イスラフィルとミカイルは小夜鳴鳥のごとく
イブライルとジブリールが彼の家の門番と下僕
(40) その天界飛行の証拠は星章で充分である
「私の性質を我々が説明しなかつたか」は彼の王冠
彼の顔は敵に対して太陽章
彼の芳香の巻毛は、すべてを消し去る夜
神の宮殿からその神の光が懇願すれば
最後の審判の日には反逆者たちの調停者

その世界の存在の理由と人間の誕生の原因、至高なる神はこのことについて自らの尊い言葉すなわちコーランに書き記している。すなわち「もしお前がいなかったなら、私は天体を作らなかつただろう。」その性質を述べるのに理解や認識は無力である。すなわちムハンマド—神が彼と彼の一族、彼の教友に祝福と安らぎを授けますように—一睨下の尊く優美な、幸福にして貞節な、善良にして敬虔な、そして清浄にして吉兆なる敬愛すべき

娘、最善の女、すなわち明るく輝くファーティマ睨下一神よ、彼女に満足あれ—である。

そしてその血統の御利益の光と真珠、天国の園の花、名誉の木の花のヒヤシンス、最愛の幸福なる子供、神の高貴なる僕、(ムハンマド・)ムスタファー—門のもっとも尊き者、(50)(アリー・)ムルタザー—族のもっとも幸福なる者、寛大と寛容の宝庫、下賜と慈悲の源泉、真実と誠実の源である。そして彼について賞賛を述べている。

詩

フサインとは誰か、ムハンマド・ムスタファーの愛し子
ファーティマの命の糧、ムルタザーの誠実なるナツメヤシ
最後の審判の日、預言者とアリーとファーティマは
神にフサインの血の代償を求めらしい
至高なる神は罪人たちの忌わしき罪を
赦免するらしい、フサインの一滴の血に免じて
彼の子供たちは現世と来世の灯である
誰でも心に明敏なる目があれば
信心深い者は皆、彼の子孫たちに口付けをする
両目にアイシャドーの如く彼の足跡の土を擦り付ける
この世とあの世の幸を手に入れるべく
忌わしき者の肉体と命は地獄の火に

そしてこの災難や不運に耐える者、死や運命に甘んずる者、カルバラーの殉教者、不滅の力の修行者、ファナーの愛の世捨て人、ズィクルと称讃に勤しむ者、王冠と旗の持ち主、美と輝きの集まり、(60)信徒たちの長、信者たちの指導者、信仰の朝、支配者の灯、サイイドの中のサイイド、救貧の町、善行のくに、慈善のチグリス河、すなわちイマーム・フサイン睨下一神よ、彼に満足あれ—である。この聖法の仕事の獅子、真実の問題の師、サイイドの系譜の土台、殉教者の一団の長、聖戦士の集団の統率者、光の集まりの象

徴である、吉兆なる愛しき子供は、信徒たちの長、イマーム・ザイヌルアービディーン猊下一神よ、彼に満足あれ一である。

イマーム・ザイヌルアービディーンの子供は、イマーム・ムハンマド・バーキル猊下である。イマーム・ムハンマド・バーキルの子供は、イマーム・ジャアファル・サーディク猊下である。イマーム・ジャアファル・サーディクの子供は、イマーム・ムーサー・カーズィム猊下である。イマーム・ムーサー・カーズィムの子供は、イマーム・アリー・ムーサー・リザー猊下である。イマーム・アリー・ムーサー・リザーの子供は、サイイド・シャー・ターリブ猊下である。(70) サイイド・シャー・ターリブの子供は、サイイド・アブドゥッラー猊下である。サイイド・アブドゥッラーの子供は、ホージャ・サイイド・アフザル猊下である。ホージャ・サイイド・アフザルの子供は、ホージャ・サイイド・アブドゥッラーである。ホージャ・サイイド・アブドゥッラーの子供は、ホージャ・サイイド・アフマドである。ホージャ・サイイド・アフマドの子供は、ホージャ・サイイド・ムハンマドである。ホージャ・サイイド・ムハンマドの子供は、ホージャ・サイイド・フサインである。ホージャ・サイイド・フサインの子供は、ホージャ・サイイド・シャー・フサインである⁴⁵⁾。ホージャ・サイイド・シャー・フサインの子供は、ホージャ・サイイド・ジャラルルッディーンである。ホージャ・サイイド・ジャラルルッディーンの子供は、ホージャ・サイイド・カマルルッディーンである。ホージャ・サイイド・カマルルッディーンの子供は、ホージャ・サイイド・ブ

ルハースッディーン・クルチである。ホージャ・サイイド・ブルハースッディーン・クルチの子供は、ホージャ・サイイド・アミーリ・ディーヴァーナである。ホージャ・サイイド・アミーリ・ディーヴァーナの(80)子供は、サイイド・ムハンマド・ホージャである。サイイド・ムハンマド・ホージャの子供は、ホージャ・サイイド・ブルハースッディーンである。ホージャ・サイイド・ブルハースッディーンの子供は、ホージャ・サイイド・ジャマルルッディーンである。ホージャ・サイイド・ジャマルルッディーンの子供は、ホージャ・サイイド・ジャラルルッディーンである。

ホージャ・サイイド・ジャラルルッディーンの高貴にして愛しき、吉兆なる子供は、諸枢軸の枢軸なる至高なる異名を持つ気高い尊敬すべきお方、マフドゥーム猊下、すなわち、ホージャ・サイイド・アフマド・スィルヒンディ⁴⁶⁾・カーサーニー—彼に神の祝福がありますように一である。

詩

世界の枢軸はマフドゥーミ・アファザム猊下であつた
 自らの時代に救済であり、時代の修行者、神秘主義者であつた
 神を知るその者はムスタファーとムルタザーの子孫である
 神秘主義と聖法において宝石をばらまく者であつた
 もしタリーカの道を問えば、托鉢僧の精神を持つ者はこの人
 真実の海の小舟である、心からこれを認めよ

45) マフドゥーミ・アファザムの系譜にはいくつかのバージョンが知られている。ハサンの息子がフサインのものもあれば、フサインの息子がハサンのものもある。詳しくは、Абашин, С. Н. 2003: 232-233 を参照されたい。『ムフリスたちの秘密』各写本にもマフドゥーミ・アファザムの系譜が書かれているが、それぞれ一致しない。

46) マフドゥーミ・アファザム自身がスィルヒンドに滞在したという記録はない。ここでは、同じアフマドの名を持つ、ナクシュバンディー教団のムジャッディディー派の創始者、シャイフ・アフマド・スィルヒンディー (Shaykh Ahmad Sirhindi) (1668 年没) と交錯している可能性が高い。あるいは、ダフビーディー (Dahbidi) というニスバを入れるべきところを書き間違えた可能性もある。

決して聖者たちに機会はなかった
 (90) 聖者たることを、どこであれ争いを主張せよ
 困難と災難の間に陥った時には思い出せ
 我がホージャ・サイド・アフマドと言え
 誰も害を受けまい
 道を間違えた罪人たちの場所は地獄である
 彼が枢軸であることに対して疑念や疑いを持つような
 ムスリムたちよ、終わりはない、彼のような
 王の
 称賛を終末まで一つ一つ述べても

マフドゥーミ・アアザム・パードシャー猊下には13人の息子がいた。一人目は、ホージャ・ムハンマド・アミーヌ猊下であり、そのラカブはホージャ・カラーン猊下である。二人目は、ホージャ・ムハンマド・ドゥーストである。三人目は、ホージャ・バハーウディーンである。四人目は、ホージャ・アブドゥハリックである。五人目は、ホージャ・イスハークである。六人目は、ホージャ・スイディークである。七人目は、ホージャ・ハサンである。八人目は、ホージャ・アブドゥルハイである。九人目は、ホージャ・ムハンマド・アリーである。十人目は、ホージャ・シャイフである。十一人目は、ホージャ・ムハンマドである。十二人目は、ホージャ・スルターン・イブラーヒームである。十三人目は、ホージャ・アブドゥッラーである。

ホージャ・カラーン猊下の子供たちは、ホージャ・ムハンマド・ユースフと、ホージャ・ミール・ハーシムである。ホージャ・ムハンマド・ユースフの高貴なる子供たちは、(100) ホージャ・サイド・ヒダーヤトゥッラー猊下と、ホージャ・カラーマトゥッラーと、ホージャ・カナアトゥッラー—神よ、彼らに神の祝福がありますように—である。その方(ヒダーヤトゥッラー猊下)の高貴なるラカブはホージャ・アフファーク猊下—神

よ、彼に—である。ホージャ・アフファーク・ホジャム…

三人の兄弟。一人はホージャ・カラーマトゥッラーである。彼の高貴なる子供は、ムハンマド・アーディル・パードシャーである。サイド・アフファーク・ホジャム猊下の婿であった。彼の尊い子供は、諸枢軸の枢軸、聖者たちのサイド、イーシャーン・サイド・アブドゥッラー・ホジャムである。彼の高貴なる子供は、サイド・ラフマトゥッラー・ホジャム。彼の尊い子供は、サイド・ムハンマド・アミーヌ・ホジャム。彼の尊い長男は、ムハンマド・サイド・ハーン・ホジャム。この尊いシャジャラはムハンマド・サイド・ハーン・ホジャムのシャジャラである。誰であれ見た者はこれに異義を唱えてはならない。書は終わり。

正しき道を追求し、(110) (ムハンマド・)ムスタファー—神が彼と彼の一族に祝福と安らぎを授けますように—の導きに従う者たちに、慈悲深き者のうちのもっとも慈悲深き方よ、あなたの慈悲によって平安がありますように。

その後、サイド・ハーン・ホジャム猊下から四人の息子が残った。一人は、ムヒーウディーン・ハーン・トラ猊下、一人はワリー・ハーン・トラ、一人はジャラルール・ハーン・トラである。彼らはウラマーや学者、貴賤を問わず、ムリードやムフリスたちを集め、ムハンマド・サイド・ハーン・ホジャムの遺言に従って、この尊いシャジャラを愛しい息子、尊い最愛の、預言者の子孫であるサイド・アフファーク・ホジャム猊下に皆一致して与えた。この尊いシャジャラはムハンマド・サイド・ハーン・ホジャム猊下から、サイド・アフファーク・ホジャム猊下に遺産として残った。誰であれ、疑いや異義を行えば、大きな罪となる。何故なら「ウン

マの合意とは、立法者の書いたもののようなものである」と言うからである。

…ホージャ・ハサン・ホジャムであり、そのラカブは、サーヒブキラーン・パードシャー猊下である。父親のホージャ・アーファーク・ホジャムが亡くなった後、救援の救済、(120) イルヤースの枢軸、修行者や神秘主義者、指導者や貴族たち、チルタン⁴⁷⁾、神秘を知る者たちの手から、神の唯一性のぶどう酒を飲み、酔っぱらい、父から残った枢軸のガウンを、彼らの許可を得て着て、枢軸の王座に座った。父親から残った修行者やスフィーヤ、ムリードやムフリスや貧しいものやウラマーや、学者やシャイフたちは皆やって来て、懺悔をし、忠誠を誓った。

さて、サーヒブキラーン猊下は、まもなく異教徒たちと戦争を始めた。異教徒たちの存在を減らし、すべてを殺した。その結果、カルマクたちは威信にかけて、数え切れない人々が迫ってきて、やって来て、ヤルカンドとカシュガル地方を包囲し、苦しめ始めた。そしてどんどん数は増え、減ることなく、拮抗していた。

ついにサーヒブキラーンは、和議を提案し、使者を送ったが、異教徒たちは同意しなかった。行ってからは、ムスリムたちの状況はより悪化した。と言うのも、アーファーク・ホージャが亡くなってからというもの、何年も雨が降らなかったからである。耕作ができず、その頃には飢餓が襲ってきており、誰にも対策手段がなかったのである。

さて、どうしようもなく、サーヒブキラーン猊下は自分の故郷から軍隊を共に旅に出る

ことにした。残っていたホジャムたちは、使者に託して、連れて来させた⁴⁸⁾。(130)「あなた方は戦えば勝利が見えています。サーヒブキラーンは、もう出て行かれました。今や何のために我々の周囲を包囲して略奪をするのですか。もし、あなた方も和解に応じて下されば、私たちも和解に応じます。あなた方に対して一切攻撃はしません。さもなくば、あなた方のしたいようになさって下さい。」こうして使者たちが苦勞して和睦させた。

さて、聞かなければならないのは、サーヒブキラーンは故郷から出て行って、七城すべての国の王のもとに行き、援助の約束を取り付けて来て、異教徒たちの左右から戦い、さらに戻って行って、幾つかの町から軍隊を率い、またやって来ては戦っていたのである。

しかし、いかなる場所でも結婚しないであった。ただ、ある時、インドの町を通りかかった。その頃はアブルガーズィー・ハーンがそこで王だった。サーヒブキラーン猊下を出迎えて、丁重にもてなした。何日か後に、自分の部族からマイムーナという娘をその王はサーヒブキラーンに供した。(140) その娘は大変善良で貞節であった。彼女とサーヒブキラーンはニカーフを執り行い、夫婦となった。それからしばらく経って至高なる神は息子を授けた。その名をホージャ・アブドゥッラーと付けた。しかしその子供は、何年か後に、まだ幼いうちに亡くなり、彼から子孫は残らなかった。

サーヒブキラーンはしばらくの間ここに留まっていたが、またホラーサーン方面に旅に出た。行く町々でこの猊下の奇跡が多く明らかとなり、王と、そのウラマーや学者たちは皆ムリードであった。そしてどこに行っても、町の人は彼の魅力に取り付かれ、猊下の

47) 語義通りには、「四十人の人」。中央アジアでしばしば登場する聖者の一団。ホージャ・ヒズルに率いられ、姿は見えないとも、人間の姿をしているとも言われる。不死であるとも、死ぬことができるとも考えられる。雲の上や水の中などに住み、墓地に集合するとされる。詳しくは、Абашин, С. Н. 1999: 108-120 を参照。

48) 「残っていたホジャムたち」とは、ホージャ・ハサンと共に旅に出た彼の兄弟、アブドゥッサーマド、マフディー、クルチ・ブルハヌッディーンのことであろう。

周りから決して離れなかった。

さて、カーブルの国に入った。この町の年寄りも若者も、貴賤を問わず、すべての人々が忠誠をつくし、ほとんどすべての人が懺悔をした。そしてサーヒブキラーン猊下はより長い期間ここに留まった。

(150) さて、聞かなければならないのは、その頃、猊下は父の故郷から離れ出て、どの町のどの王からも機会を得てカルマクたちと戦い、数え切れない敵たちの命を奪い、殺したことである。時ここに来て、カルマクの長、ホンタイジは皆を集め、相談した。「どのような策略を使えばサーヒブキラーンの息の根を止め、彼から逃れることができるだろうか」と。ついに以下のような方策を見つけた。「すべてのイスラームの町にサーヒブキラーンは出掛けて行く。町のハーキムに多くの金銭を贈り、目をくらませ、何とかしよう。これ以外に他の方策はない」と言った。この言葉はすべての者に受け入れられた。

さて、金銭を集め、何人もの使者を用意し、書簡をしたため、約束をして、すべての町に送った。しかし、誰も、「この世のために(160) 来世に行けなくなる」と言って、このような相応しからぬ仕事に同意する者はなかった。但し、カラタルという町にムハンマド・リザー・ベクという一人のベクがおり、自身も大変な圧政者で不正義者であった。彼はこの使者たちを見ると、現世にまどわされ、来世を忘れ、これらの金銭を受け取り、「私は、あなたにお仕えます。もっと沢山の金銭を下さい」と約束して言った。使者たちもこれを受け入れ、誓った。何日か後に「サーヒブキラーン猊下がヒンドゥースターンからカーブルに来たらしい」と聞いた。ムハンマド・リザー・ベクは、「神は我々の味方だ」と言って、手紙を書いた。

その書簡の内容は以下の通りであった。「第一に、この書簡は神の名において。現世と来世において彼以外に神はいない。第二に、ムハンマド一神よ彼に平安を一の名にお

いて。現世と来世、昼と夜の創造の理由、原因である。第三に、私めより、我がサーヒブキラーン・パードシャー猊下の御前に以下のように申し上げます。神のお陰で(170) 平穩無事に暮らしています。富と榮譽に恵まれて、御前の踏んだ足跡の土を目に擦り付ける以外に、何ら望みもありません。そして、世界の拠り所である御前に、以下の事が隠されることがないように。すなわちこの私めはこの歳になりました。様々な悪いことや良いことを行い、死ぬ前に今、至高なる神に望むのは、残りの人生と財産を若い者たちに譲り、聖戦の道に費やしたいのです。そのためには、どうか尊い歩みを私めの悲しみの地に進められますよう。ごきげんよう。」

さて、手紙を書いた後、一人二人の信頼出来る者の人の手に渡し、カーブル方面に送りだした。彼らは何日か進み、カーブルの町に入り、サーヒブキラーン猊下の御前に行き、手紙を渡した。サーヒブキラーンはその手紙を読み、友たちと共に(180) 相談した。皆同意した。ただし、サファ・サラル・アーフンドだけは同意しなかった。

しかし、サーヒブキラーン猊下は、「友よ、知っておきなさい。父なるパードシャーはおっしゃった。『お前の宿敵(?)は、カラタルにおり、その名はムハンマド・リザー・ベクである』と。どんなことをしても、死を免れることはできない。運命に逆らうよりも(?)、運命に同意する方がより良い」とおっしゃって、すぐにカラタルに向かった。しばらく道を進み、カラタルに到着した。さて、この間、多くの奇跡が起こった。ムハンマド・リザー・ベクは猊下を出迎えた。厳かに町に迎え入れた。自身は僕のようになって、仕えた。猊下は王らしく、「ムハンマド・リザー・ベクよ、さあ我々はこうしてやって来たのだが、あなたは聖戦に出ないのですか」とおっしゃった。ムハンマド・リザー・ベクは、「パードシャーよ、大変親切にして下さいました。(190) しかし、あと一ヶ月辛抱し

て下さい」と言った。猯下は微笑んで、「よろしい」とおっしゃった。

しかし、聞かなければならない。猯下がこの町に来る何年前、ラービアというある娘がいた。カヤーン王朝の子孫で、ナーディル・アリー・シャーというある敬虔な人物の娘だった。「いついつ、このような人がこの町にやって来る。お前はその人の連れである」と、(お告げを聞いて)、37歳になっても結婚しないでいた。自分を狂人のようにして過ごしていた。猯下が来た後、「この人こそがお前の連れである。やって来たこの人だ」と、またお告げがあった。

さて、翌日バフラーームという兄を呼んだ。このおつげを話して、「あなたはサーヒブキラーン猯下の御前に行き、私の祈禱を伝えて下さい。そして私の妹がいます。言葉が喋れず、耳は聞こえず、目も見えず、手も動きません。もしお望みなら、御前に連れて参ります、と伝えて下さい。もし何かおっしゃったら、戻って来て私に言って下さい」と言った。バフラーーム・シャーは、「お前は狂人であるのに、(200)このような言葉を喋るのか」と言った。我がサーヒブキラーンを、王女や、サイイドや、高貴なる方々にと言って、賢く、美しく、魅力的な世界にまたとない方々を供したのに、受け取らなかったらしい。お前を褒めずに、目が見えず、耳が聞こえず、喋れない、しかも身体が動かないと言ったら、御承諾になるだろうか」と言って叱った。ラービアは、「お兄さん、私が言ったことを、その通りにして下さい。そうなるのが、なるまいが構わないのです」と言った。兄は「それでは」と言って、出かけ、サーヒブキラーン猯下のもとに行き、挨拶をし、周囲の人々にも(?)祈禱と挨拶をし、すべての言葉の一つずつ申し上げた。猯下は微笑み、おっしゃった。「もし、そのように、耳が聞こえず、目が見えず、喋ることができず、身体が動かないのなら、私も受け入れよう」と言って返事をした。バフラーーム・シャ

ーは喜んで妹のもとに来て、「受け入れられたぞ」と伝えた。そして、「妹よ、お前を悪く言ってもなぜ受け入れられたのだろうか」と尋ねた。ラービアは「お兄さん、それは悪く言うことではありません。目が見えないということは、他人を見なかったことを指します。(210) 耳が聞こえないというのは、他人の声を聞かなかったことを言います。喋ることができない、というのは、嘘をつかなかったことになり、他人たちと喋らなかったことを言います。事の真相はこうです」と答えた。

さて、ラービアの兄は親戚たちと一緒にサーヒブキラーン猯下に捧げた。サーヒブキラーン猯下は、ジャラルルッディーン・アーフンドを呼んだ。フトバを読みなさい、と言って命じた。サーヒブキラーンの前でジャラルルッディーン・アーフンドは、腕に水を入れ、ラービアをサーヒブキラーン猯下に嫁がせた。サーヒブキラーンは、この娘と一緒に住んだ。この間に二ヶ月が経った。毎週月曜日の晩にラービアと一緒に休んだ。突然おつげがあり、泣いて目を覚ました。ラービアも目を覚まし、「統治者よ、なぜ泣いているのですか」と尋ねた。猯下は「愛しい人よ、知っておきなさい。別れの時が来た。父が夢に出てきて、さあ、私の側に来るのだと告げられた。今、この世から旅立つことになる。しかし、(220) お前に言うておきたいのは、私の死後七ヶ月後に、至高なる神の命により、息子を産むだろう。その息子は今お前のお腹の中で、二ヶ月になっている。私の系譜は、至高なる神が望み給えば、その子に最後の審判の日まで途切れないで、受け継がれる。そして彼の名をホージャ・カースィムにしなさい。その子を敵から隠し、守りなさい。この町に住まず、ハトラーンの地に行きなさい。至高なる神が望み給えば、最後には、そのずっと後代の子孫のうち、一人の若者が出て、もともとの我々の故郷を異教徒たちの手から奪い返し、私の名を有名にし、私の消えた灯を明るくするだろう」と言った。ラービア

は、この言葉を聞き、早春の雨のようにさめざめと泣いて、猯下の吉兆なる服の裾を取って、顔や目に擦り付けた。

さて、タハーラトをし、モスクに行った。朝の礼拝をした。おつげを臣下や友たちにも話した。彼らも泣いた。その日、正午の礼拝をした後、時が来た。圧政者にして偽善者リザー・ベクは(230)機会を見つけ、食事に毒を混ぜた。そしてこの毒をサーヒビキラーンと七人の臣下やアーフンドたちが食べた。毒が効いてきた後でそれが分かった。すぐに猯下は、「アーフンドたちよ、また私たちに毒を盛ったようだ。どうすれば良いだろうか」と尋ねた。このアーフンドたちは立ち上がって、「パードシャーよ、毒の治療法をあなたが御存知ないなら、私たちがどうして知っていますでしょうか。」サーヒビキラーンは、黙り込み、また尋ねた。彼らはまたその答えを繰り返した。三回猯下は尋ねた。これ以外に言葉を言わなかった。ついに猯下は「ああ」と唸って、「ああ、無知なるアーフンドたちよ、私には一つ二つ、何が治療になるか言いたいことがある。もしあなたたちが、(?)であれ、人参であれ、水であれ、何であれ治療していれば、よかったのに。もはや私には治療薬はない。私の父の言葉に間違いはない。今私はシャヒードになる。しかしあなたたちは、死なない。私の(?)を取って水につけ、溶かして、絞って飲みなさい。至高なる神が望み給えば、毒が何であるかわかるだろう」と。

(240) 彼らはすぐにそのようにした。毒を吐き出し、明らかにした。猯下はまた、「アーフンドたちよ、私が死んだら、この偽善者たちが私の遺体を持ち上げるだろう。しかし、気をつけなさい。私をこの土地に埋葬せず、穴を掘って、取って、私の父の足下に埋葬しなさい」と言って、(コーランの)言葉を読み、「アッラー」と言って、命を神に委ねた。「本当に私たちはアッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります、と言う。」

(註：コーラン第二章 156 節)

さて、友たちはみな、「ああ」と言って、何日かぼうっとして泣き叫んだ。ムハンマド・リザーもやってきて、嘘泣きをし、喪に服し、葬式をして、ある丘に埋葬した。そして慈善をして、従者たちは色々なところに散らばって行った。その遺言された七人のアーフンドたちも行って、途中で帰ってきて、穴を掘り、取り出し、布に包んで(?)、吉兆なる園に埋葬した。真実は神のみぞ知り給う。

さて聞かなければならない。サーヒビキラーンがこの世から去った後、気の毒なラービアは(250)大変嘆き悲しみ、どうしようもなかった。ついに兄の家にもた行って住むようになった。しかし、(兄は)はじめは、この異教徒リザー・ベグの高位の軍人だった。三四日後リザー・ベクはバフラーム・シャーに「私は、あなたの妹を私にくれと言って何度も人を遣わした。お前は、私の妹は狂人であるので、結婚はしないでしろと言わなかったか。ではなぜホージャに与えたのか」と言って、怒った。バフラーム・シャーは「狂人であるから与えたのです。おそらく治るだろうと思って」と言った。「あの方がいらっしやった時には、正常だったのです。今また狂人になってしまいました」と言った。リザー・ベクは、「お前の妹に子供がいるなら、その子供を、ラービアを、お前のような嘘つきを殺さずにはいられない。俺様はリザー・ベクという人間だぞ」と言った。バフラームを軍人から解雇した。しかし、至高なる神の力により、七ヶ月後、それも月曜日の朝、ビービー・ラービアは息子を産んだ。目に見えるが、(260)耳は聞こえなかった。月か太陽のようであった。光り輝き、美しかった。バフラーム・シャーは、女性たちや、近い親戚たちと一緒に皆やって来て喜んだ。しかし、圧政者リザー・ベクの邪悪さを大いに恐れ、「どうすれば良いだろう。この子の誕生を知れば殺すだろう」と言って誰にも見せなかった。「もし大きくなれば、私に対し父親の仇

を打つかも知れないと言って、バフラーム・シャーとラーピアと、我々をも殺すだろう。もし彼に言わずに隠したとしても、万が一あの庄政者はそれを知れば、また我々を皆殺しにするだろう。預言者の子孫であるこの罪もない赤ん坊をまだ我々の手で殺し、隠せば良いのかも知れないが、しかし、最後の審判の日に、先祖である神の預言者のもとで、我々は罪人として立ち上がらなければならなくなるだろう」と言って、赤ん坊の顔を見て泣いた。ところで、クルバーン・シャーというナーディル・アリー・シャーの弟が、信仰厚いアクサカルであった。彼が言うには、「預言者の子孫の一人の頭があるならば、それは千人の頭に値する。(270) 我々には来世が必要である。もちろん、隠そう」と言った。「もし先に庄政者がそれを知り、我々を殺せば、殉教者になるではないか。おそらく、我々は、願わくば神がそうなさらなければ、脅威ではない。」この人の言葉を聞いて、皆の斗志が燃え、死を覚悟した。

ところで、バフラーム・シャーの一人の妻も妊娠していた。翌日火曜日の朝、息子を産んだ。しかし死産だった。これを埋葬し、その代わりに喜んで、王の子（ホージャ・ハサンの子）を連れて来た。神は、恐怖のない、害もない、親切を行ったのである。

こうして、「事は容易になった」と言った。翌日、ふれてまわり、「バフラーム・シャーの妻が息子を産んだ」と言って知らせた。三四日経ってから、サーヒブキラーン猊下の言った遺言に従って、ホージャ・ムハンマド・カースィムと名付けた。そして大事に育て、六ヶ月ほど経った。しかし、しばらくすると、「こういうことらしい、そうらしい」と、このことが知れ渡ったかのようにになった。(280) これがバフラーム・シャーの耳にも入った。「やはり駄目だ」と言って、ある晩、12家族の親戚と共に移住して、サーヒブキラーンの言ったハトラーン地方に旅立った。何日か道を進んだ。

そして、ハトラーンに到着した。サイヤードという場所に言って、土地と水を得て、住み着いた。それにしても、ホージャ・カースィム・ホジャムの姿は、父親のサーヒブキラーンと瓜二つであった。誰であれ、彼を見れば、猊下を見たかのように感じた。この人の性格や行動も、成長するにつれ、明らかとなっていく。サーヒブキラーン・パードシャー猊下の事蹟と殉教、そしてホージャ・カースィム・パードシャーの誕生を、シャイフ・ムハンマド・スィッディーク・バルヒー—彼に神の御慈悲がありますように—が、称賛詩にした。その称賛詩は以下の通りである。完

枢軸の粗衣を置いて天国に行った
ホージャ・アーファーク・ホジャムの精神に
百千の御礼

修行者たちの枢軸に、チルトンが救済を
貞節は誰にとって相応しくないかと言った
ホージャ・ハサンは皆の礼拝開始を見た
許可し、そして皆が幸に過ごした
その新しい枢軸は父の座に座り
人々は彼の下僕となり、彼に忠誠を誓った

その神に近き者が皆を神の道に向けた
称讃を教え、旅人たちにズィクルと服従を
すべての天国の信者たちの河の一飲
微塵の疑いも旅人には残らなかった、
十万の異教徒と庄政者に対して襲い掛かり
災厄、動揺、災難、悲しみ、苦しみ、そして
苦勞

多くのカルマクや中国人が昼も夜も死んだ
聖戦のために腰を締め、尽力した

異教徒たちが彼に対して度々襲い掛かり
その勝利のホージャ猊下は自分の故郷から出た
ムスリムたちの町にはどこでも助けを得た
この方は左右から来て戦った
このようにこの王はあらゆる国に行った
この間長い月日が流れた
そしてその吉兆なる歩みはインドの地に到り

その国や町に繁栄を与えた

インドの町はアブルガーズィー・ハーンの町
 奴隷のように御前に立って、仕えた
 連れて来て、フトバを読んで結婚させた
 王に、そのフスラウの如き美女、マイムーナを
 ホージャは彼女と床を共にして何ヶ月か後に
 子供が出来た、彼にそっくりの子供が
 しばらく住んでホラーサーン方面に向かった
 不滅の金の持ち主、唯一性の盃の酌人

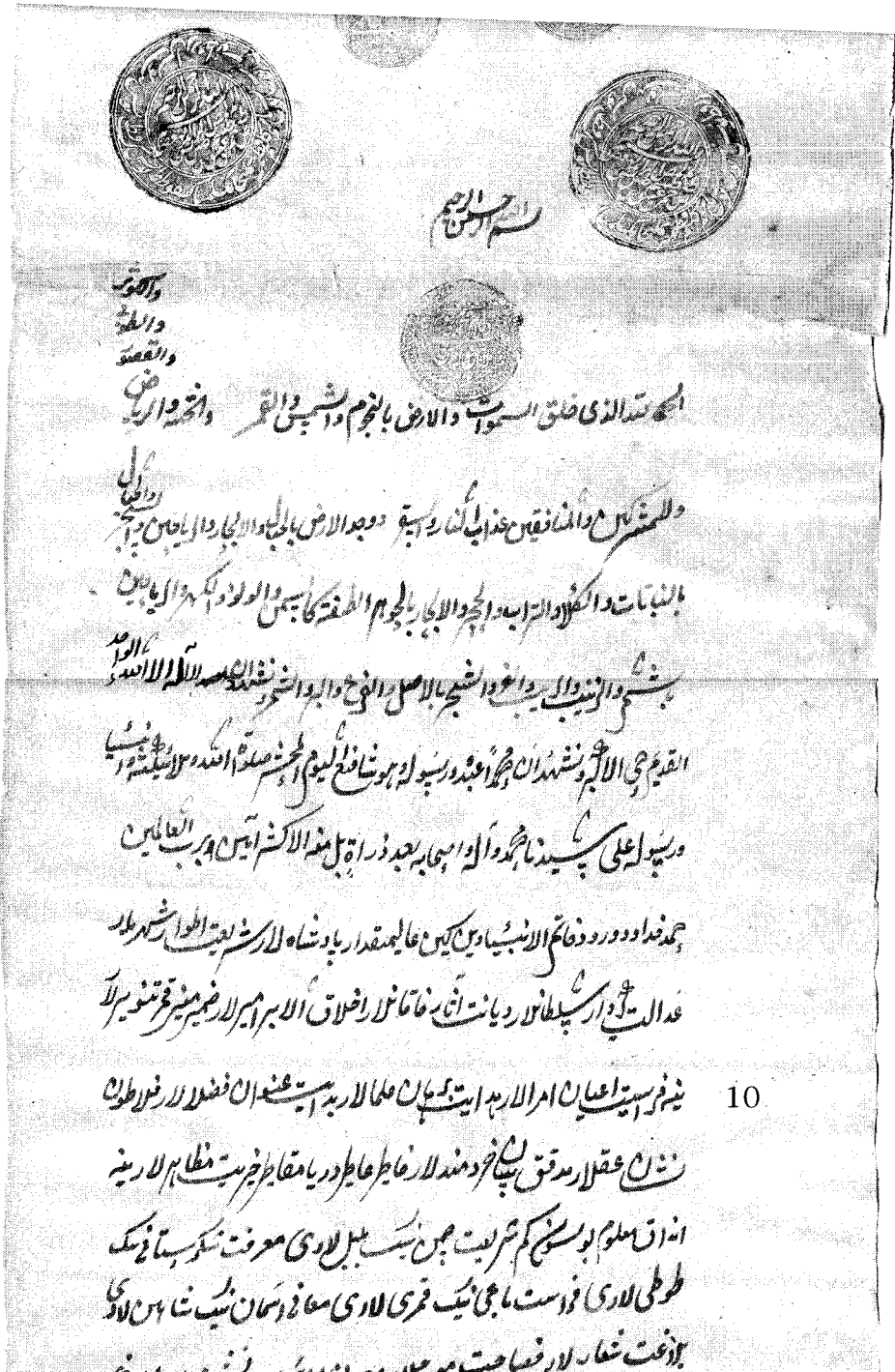
その聖性を喜び、救済に感謝した
 きて旅に出発し、その芸術品を見よ
 道を進み、何日か後にカラタルに
 その時町のベクはリザー・ベクであった
 自ら殿下に拝謁し、招待した
 町に入らせ大変敬意を示した
 そして聖戦の準備をしたいと言った
 しかしあと二、三ヶ月猶予を下さい

ラービアという名の貞節なる娘が
 歳は37に至っていた、この世で
 その兄シャー・バフラームが捧げた
 ホージャ・ナキー⁴⁹⁾が結婚を執り行い夫婦
 となった
 ニヶ月この間経ち、月曜日の夜
 立ち上がってラービアに言った、この言葉を
 今晚私に父が来ておつげがあった
 寿命が尽きたようだ、大きな悲しみだ

知れ、私の死後七ヶ月ほど経てば
 神はお前に息子を産む名誉を与えるだろう
 その子にカーシムと名付け、心で育てよ
 その子に私の系譜が残るだろう
 地から立ち上がって行って沐浴をした
 志高き王は、勤めに専念した
 翌日リザーがピラフに毒を盛った
 言葉がこうしてその通りになった

49) 前掲箇所では、ニカーフを執り行ったのはジャラルッディーン・アフンドとされていたから、ホージャ・ナキーはジャラルッディーン・アフンドの渾名だったと考えられる。『愛しき者たちの秘密』8a-9aによると、ムッラー・ナキー・アフンははじめアフファーク・ホージャに仕えていた。ホージャ・ハサンが誕生して以来、彼の養育係をつとめていたようである。『ムフリスたちの秘密』43-44では、マウラーナー・ナキー・アフンとして登場する。ホージャ・ハサンらがまだカシユガルに居た頃、ナキー・アフンは罪を犯して投獄されていたが、ホージャ・ハサンが解放してやったという。

IV. 『ホージャ・ハサン・サーヒブキラーン伝』 写真



10

بزغت شمار لار فصاحت مورعلا معدن الابرار و نشسته لارا لاروخ
 الطاف لار پیرین روزگار حقیقتی سیر از ابلاب انداق حکم قضاوتی لار کم سیر که هر که سیر
 در یک سیرین و یا هر که حکمک رسا کاسان و یا هر سیر و یکم نزه جدته سیرین بود و سیر
 بهایون سیرف روز سه سیه واجب و لازم و در کم اجداد و آما مبارک و کم لاریخی
 شیخه که سفا و دین و دایر سندان صحایف غرضه کنه ان اخوری اخبار ایینه نظر ایینه
 مان و حوال فلسفه سیر که نویسنده بنده لار بود حادث سیر فیقه عمل فلسف سیر از و اگر
 تو قدر و احترام و عقبا دولت مشرف بود لار قال رسول الله صلی الله علیه و آله و سلم
 اولاد ری اهل الجحیم قدر در الجحیم من سیر علیه السلام و در بار سیر سنا مبارک سیر لار پیرین
 مرصت فیلب بو یوروب دور لار کم اکرام فیلبک سیر اولاد سیرین ^{الصلوات}
 صالح لاری فی انبیب یولیده و عاجر لار سیرک منیب بو لوده ایتم سیر یاقین

20

فیلب ایست دور لار کم سیر اکرام الی نقه اکرامی و من اکرامی نقه اگر ما سده
 یمنه هر سیر سیرک اکرام یعنی غزه قیسون اولاد سیرینی که یا غزه قیسان بولس منی و هر که
 غزه قیسون منی که یا غزه قیسان بولس از و بولک حدیث لاری بولد و در کم من حقه
 الی نقه حقه ز من جعفری و من جعفری نقه حقه ز من حقه ز من حقه ز من حقه ز من حقه
 فی الدین و الدنیا یعنی هر که سیر سیرین یعنی بیت نوشته اولاد سیرین یعنی بیت نوشته
 بولس هر که سیرک لار که ایست نوشته اولاد سیرین یعنی بیت نوشته اولاد سیرین یعنی بیت نوشته

30

انبیکه کرنا یولر حاکم کرنا کا ز لار فی نظر دیرین قوف و وزخ خدا بیدرین قولاس و سیر
 با سیرین الی انک افرین بولک من کنو سیر اما لار سیرین مملکتی خجلا لار سیرین
 و لایح لار سیرین اولی سیر کانیات حلوه و فیده موجودات حضرت آله طیبین علیهم السلام
 لار سیرین سیرینه سیر کونده سعادت خواهه خدای سیرین که سیر سیرین سیر سیر سیر سیر
 حدیثی گوهری انبیا که فی سردی اولیا جانه سیرین سیرین ملت و سیر سیر سیر سیر
 جناب سیر و صفیه غریب سیر سیر و سیر لار کم بیت که سیر لودی یولر که سیر

دورانی بودی مردی اولیا جماعت سینی رهبری ملت و زینب زهرا
چنانکه در وصفیه غزوه کیتور دین در لاکم بیت کعبه نوزی بر لودکا
دور نظر کسی تحت حوس کینه لوبج بر سر و قری باغ گلزار و در

ایک کونیهشت طویجت دور ارا باش اوزره پسند جادری چور
علمان ایرود خندم ایک ارگاه بنه منزلین اورتا سینه دور انکلا و
نوشتری عند لب صفیه دور اول مگالی جا کر عیسی اول ایرود
پیدی بسکه معراجین ویلی سونه و انیم ایرود کیم الم شخ صفاتی
بل اتی دور نوسری عارفک و صفیه و اسمی دور حواسند چون منزل
مازل و لیل زن عنبری التا بین ایتسه خدا درگاه بدنه اول نوز حق عا

40

فی شامی دور انکلا یوم بحشری و اول عالم زه جوینی پسند و ادم
صفیته باغتی که حق تعالی ایک تربنی اوز طلام مجیدیه فبر بر بی دور که لو
لاک ما خلقت الا فلاک عابو صفیه عقل ادر اک میخ حضرت شریفی
اصد علیه اله و صیبا بود نیک سبت شریفه لطف میونه سونه صفا
عابد طاهره مبارکه محتره لاری حضرت اینی ایضه فاطمه زهرا دور لار
و اول نسده پسند نوز دور و صب ریاضت کله و شرف کنایه سبت
وزند دیند سعادت مند لاری اول عبد خاص محاسن خدا اشرف الال مصطفی

السعداء مرتضی حنظل ابو دود و اسخامه اللطف و العطا منبع القدر و الوفا
کیم ایک عالی مدیده ایتد دور لار سبت کیم حسین دور نوز عین محمد
مصطفی قوه جان فاطمه نخل صدیق مرتضی تانکلا محشر کون بنی بر لار علی
و فاطمه قلبیه اشرفش لار طبعین حسینک خونیه با حق تهر می
لار ایک صرم قصیان نیک عضو ایلامش حسین بر قطره قاین و جمیدا

50

وکی دنیا نیک حیدر دور اینک فرزند لاری که بولس بر کم نیک چشم
 کو کلک هر کیشی مومن بوسه ایلا اینک اولادنی باسقا ان اذ تو غانی ای
 کوزلیک طوطیا تا مپسر قلبه نیابر بر عقیق دولتین جسم علم جانی جوم
 اوتیکا و اول صابر الافات و البور فی الموة و القضا شمس اللکرات لک
 القوه البقا ناکر مح الفنا شافل الذکواتنا صاحب الاموال و اللوات جمع
 الحسن و الفیاض المومنین امام السیلمن صخر الدین سراج الان سید

60

ارشات بلتة الرکات کتو کت و تاجیزان بعز حضرت امام حسین دور لار
 رمز الله عنه و اول شریعت پیشه بنه شیخ زادی مهتفت مسئله بیسنی
 نیک استادی مسلمات سلسله بنه سک نیادی شهید اگردهی نیک دوری
 جعد جمعی تک در میر انوار محمود نیک مظهری نیک فرزند دلنبد سعادت میشد

لاری حضرت امیر المومنین امام زین العابدین دور لار محمد بن محمد و امام زین
 العابدین نیک فرزند لاری حضرت امام محمد باقر دور لار و امام محمد باقر نیک
 لاری حضرت امام جعفر صادق دور لار و امام جعفر صادق نیک فرزند لاری حضرت
 امام موسی کاظم دور لار و امام موسی کاظم نیک فرزند لاری حضرت امام علی موسی
 رضا دور لار و امام علی موسی رضا نیک فرزند لاری حضرت شیخ طائب

70

لار و سید شاه طالب نیک فرزند لاری حضرت سید عبد الله دور لار
 و سید احمد نیک فرزند لاری حضرت خواجہ سید افضل دور لار و خواجہ سید
 نیک فرزند لار خواجہ سید عبد الله دور لار و خواجہ سید عبد الله نیک
 لار خواجہ سید احمد دور لار و خواجہ سید احمد نیک فرزند لاری خواجہ سید
 محمد دور لار و خواجہ سید محمد نیک فرزند لاری خواجہ حسین دور لار و خواجہ

مختم عظیم پادشاه اوج اوغول قالدی اول حضرت خواجہ محمد امین کرم اللہ
 ی حضرت خواجہ ملا ان دور ایک خواجہ محمد دوست او خواجہ مباد اللہ قد و خواجہ
 عبدالقادر پشور خواجہ اسحاق التوحید خواجہ صدیق شیخ خواجہ حسین کرم خواجہ عبد
 الہی توتوز خواجہ محمد علی او خواجہ شیخ او ان بر خواجہ محمد او ان بر خواجہ سلطان
 ابراہیم او ان او خواجہ عبدالہد و حضرت خواجہ ملا نیک فرزند لار خواجہ محمد و
 خواجہ میر شام دور لار و خواجہ محمد لویف نیک فرزند لاری و ارشد لار حضرت خواجہ
 سید ہدایت احمد خواجہ کرامت احمد و خواجہ قاسم احمد دور لار حضرت
 دور لار لقب ذلی لار حضرت خواجہ افاق رحمۃ اللہ علیہ و خواجہ انور گنجی

100

اوج برادر لار لاری خواجہ کرامت احمد دور لار الار فرزند ارشد
 لاری محمد عادل پادشاه دور لار حضرت سید افاق او حم فرزند او بولا
 دور لار بولار فرزند ارشد لار ارشد احمد خواجہ قلب
 الاقطاب سید الاولیاء دور لار الار فرزند ارشد لار ارشد
 خواجہ الار فرزند ارشد لاری سید محمد امین خواجہ الار فی
 فرزند ارشد ارشد لار محمد سید خان خواجہ دور لار بوسحر
 شریف محمد سید خواجہ سحر لاری در بر کرم کورسہ خلاف و خان
 قاسم لار نام نام واسلام السلام علیہ و آلہ و سلم
 المصطفیٰ صلی اللہ علیہ و آلہ و سلم یا ارحم الراحمین

110

بعده حضرت سید خان خواجہ دین تورت اوغول قالدی سیر لاری
 حضرت نزلدین خان تورو و بر لار حضرت دلی خان تورو و بر لار سلطان خان
 تورو دور لار بولار و علی و فضل و کند کیچک لار و میر غلط لار جمع بولار
 حضرت محمد سید خان خواجہ و حیت لاری محمد قلب بوسحر شریف فرزند
 نور چشم لار و بلند ارشد لار و اولاد پیغمبر اولاد حضرت سید افاق خواجہ
 اتفاق بولار و بولار لار لار لار لار لار لار لار لار لار لار لار لار لار

وپار حضرت قبر الفیہ استقبال کلاب اعزاز واکرام لاریلان قوم وروب مجتهد
 نوذین کلبین اوز قومینج میوند وکیان قبر نه اول شاه صاحب قبر الفیہ نظر
 140 واد بقبر کوب عالیه مستوره ایودی شوینکده بن حضرت صاحب قبر الفیہ نظر
 کیر ذوب اقبیسر بولولار ائیکدن پنجه وقتینج سونک حصار تقال اول اول نوزده
 یورکه ایک آنه تک خواجه عبداله قوبوب دورلار اما اول نوزدهم پنجه
 باشقه کوب تکملک وقتیه وقات باقاندور که پهلدر نسل بالابد وروب
 قبران قنجه وقت بوده تور ودر خزان بقده سو بقدر لار وهر سکرده بو
 حضرت نیک خوار قرار واکرام لاری کوب طهر بولور ایودی کیم شاه وکند علی و
 لاری همزید دورلار وهر طکان لاری سهر ایل جذب وحنوفه کوب حضرت
 اطراف لاری پنجه فیان بار ماسی ایولار بقصه کابل مملکتده دوش بولولار
 وپنجه نیک خوار وکنت لاری ودر لاری لاری کیم ایول ودر مراضی ایول
 ونب لاری ایول ابات پیشه لاری حضرت صاحب قنجه لاری اول ماده بولور
 150 مالدی اول فضل ایول کیم لاری کیم اولو کیم حضرت آت لاری نیک ایول حبیب
 قوسکرون لاری مده کلب بارب مال نولار بلان اولور وکیم حبیب
 کیم سیر نیک وجود است قور وکیم اول دور بویان کیم لاری خلد قاله
 اولوش لاری نیکای همه لاری جمع لاری مصلحت اولور که قیداق مکر سکره
 حب قران نیک نابور وقلق ائیکدن قوتول کافوالا مشبو کونیک
 تا بتلار که هر اسلام شهر که صاحب قران بار اولور لاری ائیک هاکنه کوب مال
 وینا بریب ماکه دینا فرقته بولوب برایش قبیه والا مؤذین
 اولور که علاج یوق دیدیلار بوشویمه لاری که معقول القصه مال وخواجده
 جمع ایلاب پنجه ایول استلاب نامه لاری یار نیک عهد لاری قنک هر قیشهر
 لاری ایبار دیدیلار اما صح آدم بولور ماش لسته غه اولور که دینا اولور
 160 اولوق تدرین اولور بس لاری دیب مکر قران مال دیکان شهره محمد رضا بیک
 دیکان بریبیک بار ایودی اوز کوب عالم انصاف اولوش مشبو لاری

نیک کور کا نڈن کین ڈنغہ معوزر بولوب آفوتنی فراموش قند بول مال
 آکسہ ای کہ من صد متنے بجایا تیارینہ کوب مال برنگار دیب ایدی
 اچلاریم قبول قلب آنت اکتیلار نچند کوروش کین اشتیلا رک حضرت
 صفترا بنہ ستاندین کا بلغہ کیلدار ویش و محمد رضا بیک خدا بزخہ
 بردی دیب نامہ باز دور و نامہ مذمونی جو اید کہ اول نامہ خدا اذ اتم کہ
 اچکالہ آکدین بنغہ خدا موجود ایاس الکنی محمد علی سلیم نیک املار لفا کہ
 توین و طوبی نیک حلقہ نیک باغش سیر و لار او جو کجی نیک اید
 حضرت صاحبقران پادشاه کلمہ فصیح مندر ذہن اذ ان مووض دور کم اگدہ انا
 ایس دولت و سار توفہ معوزر لور و ب حضرت نیک سخا اذ لار بر نغہ
 لور و مغالورہ قیلا قدین بختہ نظر ارضعوا کوفہ و وارین سوت کجی
 با صاحب لار لور و و محض مالکان کجی فقیر کجی کنہ لار و کجی بختہ
 کجی ب و و کجی ہر نہ مان و کجی حبیب اول کجی اید حضرت صاحبقران سواق
 وید و ارضو فیصلہ دور و مکہ فالغان عرو و و لور و توفہ تصدقات آسب
 عذات یولیفہ حرف آسب لکیر ط قدیم مبارک لار بر نیک اوزان من لفظ
 بکورس لار کجی لار و کذا بانی اکرم علیکم اللعظہ نامہ غام بولغادین کین بول
 لفظ دان اذ و توفہ لفظ کوب کاب لفظ روانہ فقید لار لولار مجند
 کولڈر بول لور و کاب لفظ لفظ و اصل بولوب حضرت صاحبقران لفظ
 صد سول لفظ بار بیسناہ توفہ لار و صاحبقران نام سیکتا لفظ قلبی لار و لور
 کلمہ اشتیلا ریمدر ارضو لولڈر کجی صفت لار اذ فونڈر رضا لولڈر لار اذ حضرت
 صاحبقران و بولڈر کہ ای بار لار لیک اکہ بولولڈر کہ آنت ما و کجی نیک
 زنیقان دور لار کہ سنن کونڈنک ذماتالہ دور اذ محمد صاحب دور
 ہر فقید اقبول اول لور و کجی کجی بولوب بولس لور و فقید کجی کجی کجی
 رضا بولغان ہراق دور و ب کجی کجی لار لفظ روانہ بولڈر لار کجی
 بول بولوب ذماتالہ لولڈر لولڈر دور تہ کجی کجی کجی کجی لار کجی

170

180

نویدین کوب ظاهر بود در حج و صاحب حضرت شیخ سید سعید لاری صاحب
 اعزاز و اکرام لاری لاری سید بود که در ذریع حق و سید بود که در ذریع
 و حضرت یار و شایسته است و لاری که از حج و سید است و سید بود که در ذریع
 حضرت سید بود که در حج و سید است و سید بود که در ذریع
 لیکن برای مبرق فلسفه لاری در حضرت تبسم ایاب معقول دور و در لاری

190

اما بعد از اشتیاق لازم که حضرت نیک و بشرفه کلمات در سینه مجتهدل مردوخ
 دیگه بر قرنه کیسه پادشاه لاری نیک لاری و ما در علمت و دیگه بر عابد و در
 کیش قیز زردی که فلان تا کج ده فلان تو سلوک آدم بول شهره کلمات دور
 و نیک حقیقی دور سینه دیب شو نیکینه او تو زتی غه کر سب او لاری و او زنی و او
 قیلب با قیلب تو ریب و حضرت تم کلمات پیر سن نیه بشارت بول که او نیک کشته که
 سینه کلمات نیک شوی کلمات کیشی دور لاری دیب القدر پیر لاری دیگه اعلا لاری
 و لاری لاری بشارت نیک معتب دی لاری که سینه حضرت حقا قران نیک حضرت نیک با نیک
 اینک من بر شیره باری کونک قولای کر کوزی کور قولی شل اگر خواه لاری سینه نیک
 کلتوری دیک بر ننه دیر لاری کیش کلمات دیکر لاری تا دید لاری کم سن دیوانه بول پیک شوی
 سوزن دیر بود نیک صاحب جعفر نهم پادشاه زاده سینه زاده لاری و او نیک زاده لاری علم

200

و جمال و ملاحظه جهانه انداخ نهم سینه لاری از همیشه لاری نیک نیک رقیب افنده
 الهه خان همیشه لاری نیک باخته مای کور کر کونک شل دیفانده الاره کلمات
 دیگه سینه لاری رابعه دیدیکه ای انعام هر نه من دیم شو نیک قیلبک خواه بود
 خواه بول پیر اعلا لاری سینه نیک صاحب جعفر نهم نیک نیک لاری نیک با نیک
 فلسفه لاری دعا و سلام و نهم سوز لاری بر بر عرض قیلب لاری نیک نیک نیک نیک
 که اگر شوند انداخ کر کور و کونک بشیر لاری سینه نهم قول قیلب و در جواب و لاری

که اگر شوند رخ نرود کور و کونک و شل بولس پریم قبول قدوق دیوان بولس
 شت وین و خوشتر از همه شیر لاری الیه که کبیت قبول قتلدار و آتی الله
 و خوشتر از همه که ای پریم است نه او چون مان لاغانه قبول قتلدار و بولس
 و بولس که از نام جاناناق امیر کور و بولس که در کمال نیک و بدور که

210

دیب و محرمی او از بی اشتها نیک ایور کونک دیب یا همان و همان
 و نامحرم بولس پیوز لاشمان نیک و بدور قولی راست نوله در القدر انونیک
 اعلا لار قوم و قرند اش لار السالبت حضرت صاحب الخ غنذ قدوق و
 حضرت صاحبقران جلال الیه منی افوند نیک عبقر و رب الیه در خطبه افونک
 دیب آتی و صفا الله جلال الیه افوند کاهه سو قیوت ابونیک حضرت صاحبقران
 غه نکاح ای لار و صاحبقران بول قیر بلان خلوة غه بولدار و بول انشاده
 ای کای او نیرد و کینه چشم در ابونیک افوند ربه یاز که کاهه اثبات فایض
 او بیفاندار و در ابونیک او نیک سو ربه اشبار که نه او در جبهه انور حضرت
 یاز که ای کای او نیک که ای کای او نیک و منتهی انه بادت انکس است
 بولس لار که ای کای او نیک که ای کای او نیک و منتهی انه بادت انکس است

220

شبه سوزم بولد و در منرفی سیدین بی ای دین کبیر حق عکانه اجر بلان بولس
 فوند نونار ساین و اول زنده الحال سنخ قار طیده ای کای او نیک تور و دست نسبت
 و سلیم آینه و کالیق منفذ او زول و در است انکس انکس ای کای او نیک
 قولی نظار و از دستند و کین بولس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 خطه زین نه بار نظار کبر و منتهی انه بادت انکس انکس انکس انکس انکس
 و طینه نیزه کفار قولی انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 و بغور و در است انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 حضرت تیغ مبارک نیک لار انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 نیک سوزنه بار و در نونار با اول و نونار انکس انکس انکس انکس انکس
 الیه کوب بولد و در است انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 طاق و منافق موردی نیک انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس انکس
 بولس تیغ حاصل افوند لار سینه زهر کار قبلی من سوک انکس انکس انکس

230

چه کلاه تیغ حاصل اخوند لاریست از مهر کار قبلی من سوخت او کوله بلاغی کلاه
 حضرت سوزیدار کج اخوند لاریم نرفته عوز هر بر سرش ر لار دو کسر مشهور
 لار اخوند لار فوج خوب دید یار کیم تقصیر داشت آنم نرفه دو سینه لار لاریستان
 لار نزلان تیر انی بیوز میز صاف غرا نه سو کون لاریب نینه سو لار لاری کس کج لاری کوه
 او عمر اندی حضرت سوزیدار بو کوفه کون کون و جا و جبار افرو لار حضرت سوزیدار
 تار تیباید که ای نادانم اخوند لاریم بر ایجا او جاسوز داغ که نهد دو اورد
 آکین لار خواه جامه خواه رزدی خواه پو مهر نرسد که دو اوردی شکل لاریستان
 لار ادبی ایله سواد بوق انم فی سوز لار خطابون منفرد ایله سوزیدار لاریستان
 لار اولاس سفر قلمیغ لاری کس سوخت لاریب سقیب کین لاریستان لاریستان

240 لاریستان انی قبلی لاریستان لاریستان قبلی لاریستان حضرت نیمی نیمی که
 ای اخوند لاری من اولان تون کین بوره فقیر سوزیدار قبلی لاریستان
 نینما سوزیدار قویجا ای قبلی لاریستان ایستان ایستان ایستان
 ایستیکلاری سوزیدار قویجا ایستان ایستان ایستان ایستان
 وای ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 قبلی لاریستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 بر نرفه و فن قبلی لاریستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 کین لاریستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 نمانجه سو لاریستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 لاریستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 نوبه و زار قبلی سوزیدار نمانجه ایستان ایستان ایستان ایستان
 وای ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان
 سن و بدو قبلی سوزیدار ایستان ایستان ایستان ایستان
 ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان ایستان

250

اوجی لور برادر شاه ویدی دیوانه لیک دین بر دوک ساید سگای سوندیه
 او کلبه باریده و درست بولوب ایمر ایمر رخص و بوانیم بولوب و رودیل
 رفاقت بخت دیدیدر خیر ستر ستر ستر ستر ستر ستر ستر ستر ستر ستر ستر
 زوسی و لیسایغان حرف اولتوسج بفاکت دکا ادا اولماس ویدی
 و بر منرس کورده لیک دین کورده رقتدر و الا صدر رقتدر کورده رقتدر
 تخرد و کورده رقتدر کورده رقتدر کورده رقتدر کورده رقتدر کورده رقتدر

260

ایشیمکان ایردو مثل اترو کورده لیک ایردو منور و منورین ایردی و بهرام شاه
 اعجاب لار سیران و یقین توغخان لار سیران لیک لیک بشارت بولوب اولمکن
 عالم شتر بیدین کورده فایب بیداق قیلر نه بولوب ایله ندر بولوب کورده
 تولدنه ایشتمه اولتور و دیب کورساتما دلا اکر جونت اولسا آتاس بیخونق
 مندن اولور دیب بهرام شاه و رایه و بولار نه تخرد اولتور و اکر انکا و جمای
 بروقت اولکالم خبر نامه تخردنر همه منرنک هم اولتور و بولوب کورده
 زاده نی جانی اوزمیر اولتور و بپنهان اتیاک قیامت کوننی باسینی سول
 هذا قاشینه قرا یوزوک توفاک کراک دیب کورده نی یوزیکا قرا نیلا
 ارادین قرابان شاه دینخان ناد و عیلتش نک لوکاسپه امقال مؤمن کیش ایردی
 اول دیدیکه اکر سهر زاده نیک یولده بر باش تور منکباش بر سبک ارزیدر

270

اوقت نیکه در کار دور البته پنهان قیلای دیدلا اکر اولکالم خبر نامه
 شهنشید بولابنیرتاید نیر صدام قلا سیه عرس بونیک سوز بیزن بر لاری
 بخت لار جوش قند اولومغه و ضعی بولدیلا انا بدهاشنی هم بر خاتونی
 هم حال ایردی آتیر پسه شهنه کونی سوز قنده بر اوغول توغدی یرکه اولوک
 نوشته انی دین اوزنغه قوشوقت بولوب شهنزاده ترتیب قیلدیلا
 بچونی بفرز عیلت اولدی ادر ایشیم انسان بولدی دیدیلار و رقتدر

قیلمه لار که بهرام شاه فی عاتونه او غول تو غودور دیب آوازه ساله یلار اوج
 قدرت کونیه اولکانه مین سوک حضرت صابرا بیگانه دیلکانه وصیت یار دیک خواجهم
 ات تویدلار وانی یخش اسرار ایردی لار تا که یوار افه اتقی ای اولی کن
 کین شهرت بولورک بیوز مشهور اولغانه دیک بولدر ایند اق امیش موزلق
 280 د بوز شوقی بهرام شانی قولایغی ختی ایش بولدر دیب بر کجه اونیه ایکی اولورک قوم
 قشیش لار بر لار کوجوب صفرا نیم دیلکانه خطلان زین غور وکنه بولدر یلار غنبد
 کونیه بول بوروب القصه خطلان بی لار سیاد و یغان موضع فی خه بار بیج
 الی کنه بولدر لار اما خواجهم قوجینی تام صورت لار بعینه صابران اتمه
 او ش ایردی لار بر کوم فی نور سه حضرتیم ذکور کانه کله بولدی ایدی بولدر خواجهم
 هم بارغانه سی طاب بولور ایدی حضرت صابران پادشاهیم ذواقه حال
 و شهاده لار و خواجهم پادشاهیم ولادت لار نیک شیخ محمد صدوق بلجی
 اید عینه صبره نظم قیلمه دور لار اول مدحت بولی ایش دور

